OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ウイグル文『阿毘達磨順正理論』-大英図書館蔵 Or.8212-75Bから-
Author(s)	庄垣内, 正弘
Citation	神戸市外国語大学外国学研究. 1988, 18, p. 159-207
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/20599
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ウイグル文『阿毘達磨順正理論』

——大英図書館所蔵 Or. 8212-75B から——

庄垣内 正弘

ま え が き

大英図書館所蔵のウイグル語写本 Or. 8212-75A/B は1907年に Aurel Stein によって敦煌の千仏洞より将来された文献である．この文献に関して，1921年には Stein がその体裁について記述し，[1] 1925年には羽田亨が奥書を中心としながらもその全体について解説した．[2] 彼らはこの文献の内容を『阿毘達磨倶舎論実義疏』に同定したが，のち1790年になって Şinasi Tekin は 75A に所属し，一から一七の丁数のある独立した1冊子が『実義疏』ではなく Jātaka-stories であるとと推定した．[3] さらに 1976 年に筆者は，Tekin の Jātaka というのは誤りで，実はこの1冊の内容が Avadāna であることを明かにし，その解説とテクストを提出した．[4] 75A/B に関するそれ以外の部分，すなわち『実義疏』に関する研究は，羽田亨以後 Tekin が上の記述とともに奥書について触れ，ファクシミリを出版したが，ほかにまとまった研究は提出されていない．この『実義疏』はウイグル文献中では，ハミ本 Maitrisimit とならんで最大量（およそ7000行）を保有する文献で，元代のウイグル語資料としてとりわけ重要な位置を占めており，テクスト・エディションの早急の提出が期待されている．

このウイグル仏典の翻訳の原典となった漢訳文『実義疏』はサンスクリット原典とともに既に散逸しているので，原典との対照によって全体の翻訳を行うことはできない．しかし幸いなことに，この仏典中には『阿毘達磨倶舎論』や

『阿毘達磨順正理論』からのかなりの量の引用文が含まれている。またウイグル語訳文は極端な擬漢文体を使用しているので,[5] 引用文を漢文と対照させることによって，正確な対訳語彙と対訳構文を抽出できる．それらを対照漢文をもたない部分に適用し，ほかのウイグル語文献からの情報を利用すれば全体の翻訳だけでなく，原典漢文の再構もある程度可能となるにちがいない．

ここでは，75Bに引用されている『阿毘達磨順正理論』を捜し出し，その転写テクストと対照漢文，和訳，註記，さらに漢語—ウイグル語対照語彙を提出し，漢文原典再構への足がかりを作りたい。但し，対訳語彙や対訳構文に関する詳細な解説は紙面の都合で別稿に譲りたい．

写本テクスト頁行	転写テクスト文番号	写本テクスト頁行	転写テクスト文番号
25B.7 ～28A.2	1～ 65	59A.10～59B.14	161～175
46B.4 ～47A.6	66～ 78	61A.13～61B.14	176～184
47A.14～47B.8	79～ 85	73B.14～74A.2	185～186
47B.11～48B.6	86～106	74A.14～74B.5	187～190
52B.5 ～52B.15	107～114	75A.2 ～76B.9	191～225
53A.4 ～53A.5	115	76B.11～77B.6	226～242
53B.3 ～53B.7	116～118	79A.15～79B.12	243～249
53B.8 ～55A.12	119～149	79B.15～80B.13	250～267
57B.14～58A.11	150～160	85B.10～86A.2	268～271

（但し，Aは表Bは裏）

（1） Aurel Stain, *Serindia*, vol. II, Oxford, p. 925.

（2） 羽田亨「回鶻訳本安慧の倶舎論実義疏」『羽田博士史学論文集』下1958, pp. 148-182.

（3） Şinasi Tekin, *Abhidharma-kośa-bhāṣya-ṭīkā tattvārtha-nāma The Uigur Translation of Sthiramati's Commentary on the Vasubandhu's Abhidharmakośaśāstra: Abidarim koşavardi şastr* I, Garland Publishing, Inc. New York, 1970, pp. IX-X.

（4） 庄垣内正弘「ウイグル語写本・'観音経相応'—観音経に関する 'avadāna'—」『東洋学報』第58巻1・2号, 1976, pp. 01-037.

（5） 擬漢文体は「阿含経」ウイグル文にもみられるが，これらに関しては，庄垣内『ウイグル語・ウイグル語文献の研究』I（神戸市外国語大学研究叢書第12冊1982, pp. 105-119）を参照されたい．

テ　ク　ス　ト

漢訳文はウイグル文に対照させて掲げ，和訳と註は各頁の下部に掲げる．和訳は逐語訳とし，番号を付して本来のウイグル語順を示すが，大概は日本語語順と一致する．AB1)CD4)EFG3)HI2)→ABHIEFGCD．ウイグル語転写は基本的に音素転写を施したが，若干のものは文字転写で示した．文字dとtは子音d，tを表すのに混用されているが，ここでは文字のまま記した．文字iは実際にはiとeをあらわすが，区別せず共にiで表した．又，yに後続し共鳴子音に先行する第一音節の母音を文字表記しない単語があるが，それらの母音はゼロ表記した：YM' (yemä)→ymä YRLYQ (yarlïγ)→yrlïγ．一方初頭のyに続く前舌円唇母音あるいは köngül のöは後舌円唇母音を表示する文字uで表記されているが，これらには該当する母音音素を与えた．

なお漢訳文は『大正新脩大蔵経』（第二十九巻　毘曇部）を用いた．但し，漢字は当用漢字を用いた．更に註記で「国訳」と記したものは『国訳一切経』（毘曇部　第二十七巻）のことである．

1	bu yörmiš-ingiz andaγ ärmäz	360C(4)　此釈不然
2	25B amtï munda (8) tägimlig ol söz-lägäli	今且応説
3	qayu tïldaγ-ïn bir tuγmaq (9) -lïγ bir turmaq-lïγ bir ärdmäklig ulatï bir tüš-lüg-tä ulatï köngül köngul-täki (10) nom-lar-ta	何縁一生一住一滅及一果等心心所中
4	söz-lädi köngül-nüng adï bolur ič-tin sïngar-qï (11) tip	説心名内

1　「此の（なんじらの）釈は然らず」　andaγ ärmäz＝「そのようでない」＝然らず．

2　「今且らく1)応し3)説く2)」　munda＝「ここに」＝且らく．応に対しては tägimlig ol...-γalï/gäli のほか一般には -γu/gü kärgäk が用いられる．ただし，不応にたいしては tägimlig ärmäz...-γalï/gäli が用いられる．

3　「何に縁りて一生一住一滅及び一果等が心心所中で」　köngül-täki nom「心にある法（心所有法）」＝心所．

4　「説けるや4)心の名が1)なると3)内と2)」　名(v.)には atï/adï bol-...tip があてられる．ほかに ada-...tip もみられる．v.＝berb　n.＝noun

5	köngül-täki nom bolur taš-tïn sïngar-qï tip	心所為外
6	豈不心所 (12) 依 näčük ol köngül-täki nom yïlayu män köngül-kä tayanmaz mu	豈不心所依仮我心
7	bu (13) tayandačï töz ol tayaq-ïnga körü	是能依性。対彼所依
8	odγuraq yaqïn yaγuq ärü (14) ärü adï bolγu kärgäk ič-tin taš-tïn sïngar-qï tip	極親近故。転応名内
9	26A yana (15) köz-tä ulatï-lar köz bilig-in-tä ulatï-lar-qa uzatï (1) tayaq bolur ärmäz	又非眼等与眼識等常為所依
10	arïdï bolmaz üčün köngül köngül-täki nom-qa (2) 為所依性 ašïray-ï tayaq töz-lüg bolmadačï	未曾有心　不与心所為所依性
11	anïn yintäm (3) köngül-täki nom-nung atï bolur ič-tin sïngar-qï tip	故唯心所　応名為内
12	(4) azu yana munda yana bar qayu adïrtï yörüg	或復此中有何殊理
13	(tüz-ün (5) täringinčä ärsär) yïlayu män köngül-kä tayaq bolsar uqïdïp bolur (6) ič-tin sïngar-qï tip	与仮我心為所依者　立之為内

5 「心所を1)為すや3)外と2)」「為」(v.)は目的語をとらないときには bol- が，とるときには qïl- が一般に用いられる.

6 「豈に心所は仮我心へ依らざるや」「豈」は näčük ol...mu「どうして…か」で表現されている.

7 「是の能依性は彼の所依に対して」　körü=「見て」=「対して」，能依は tayandačï 所依は tayaq 又は tayaq-lïγ で表される.

8 「極めて親近，転じて（その）名は1)なる応し3)内外と2)」　ärü ärü は168でも「転」にあてられている．また Insadi-Sūtra では ärü ärü は「漸漸」に対してあてられている．(semih Tezcan, *Das uigurische Insadi-Sūtra. BTT* III. no. 659). taš-tïn「外」は不要．漢文の故にあたるウイグル語はない.

9 「又，眼等は眼識等へ常に所依と為るに非ず」

10 「曽て1)有らずゆえ3)心が心所へ所依性と為らざること2)」　ašïray-ï=skt. āśraya「所依」. arïdï bolmaz=「未曽有」cf. no. 30. 本来は「未だ曽て，心ありて心所のために所依性と為らざることあらず」(国訳一切経 p. 132).

11 「故に唯，心所の（その）名は1)為す3)内と2)」　「応」にあたるウイグル語がない.

12 「或は復た此の中にまた1)有るや3)何の殊る理2)」2番目の yana は不要. adïrtï の -ï は不要？あるいはここで切れて，「何の殊ること」と訳すべきか．cf. 13.

13 「仮我心へ所依と為れば（之れを）立てて1)為す3)内と2)」　tüz-ün täringinčä ärsär=？tüz-ün は töz-in で12の yörug につながり，「理性の深きものとしては」と訳すべきか.

14	uqïdïlmaduq tayandačï-sïn anïn siz-lär-ning qayu söz-lämiš-ingiz-lär (7) -ning yoq arduqraq yörüg yol-ï	不立能依　故彼所言無深理趣
15	又 (8) 心少分 yana köngül yarïm-ča ärür ärsär män adqa$_{\gamma}$-qa tayaq (9) alqu köngül -lüg tayaq-lar-nïng barča-lar-nïng adï bolur ič (10) -tin sïngar-qï tip	又心少分　是我執依一切心依　皆名為内
16	munung u$_{\gamma}$ur-ïn-ta tägimlig ärmäz munda$_{\gamma}$ tip (11) yörgäli	由此不応作如是釈
17	män adqa$_{\gamma}$-qa tayaq bolmïš üčün yïlayu-sïnča söz-lämiš (12) ol köngül-üg bolur män tip	我執依止　故仮説心為我
18	yana yarïm-ča köngül 貪等依故 (13) az-ta ulatï-lar-qa tayaq bolur üčün	又少分心　貪等依故
19	köngül-lär barča (14) kkir-lig bol$_{\gamma}$u kärgäk	応一切心皆成染汚
20	azu-ča ymä yarïm-ča köngül yo$_{\gamma}$un (15) inčä saqïnč-qa tayaq bolur üčün	或少分心　尋伺依故
21	26B alqu barča yo$_{\gamma}$un saqïnč-lï$_{\gamma}$ (1) yinčgä saqïnč-lï$_{\gamma}$ bol$_{\gamma}$u kärgäk	一切応成有尋有伺

---

14 「立てられざりし（その）能依により，故に汝らの所言の 1) 無い 3) 深い理趣は2)」 yoq は実際には YUZ とかかれている．故（に）対しては anïn「それにより」があてられている．cf. 160.「彼」にたいして，siz-lär「なんじら」があてられているのははかに 24 255 256がある．

15 「又，心少分1)なれば3)我執への依2)一切心の依などの皆の名は4)為る6)内と5)」 「一切」と「諸」には alqu が，「皆」には barča あてられる．

16 「此れに由りて1)応からず3)是の如くと釈す2)」「由（りて）」には常に u$_{\gamma}$urïn(-ta) があてられている．

17 「我執へ依止となりたるが故に仮に1)説けり5)心を2)為すと4)我と3)」 「依止」(「たよること」)には「依」と同じ訳語 tayaq があてられている．

18 「又少分心は貪等へ依となる故に」 「少分」＝yarïm-ča「部分（半分）として」．

19 「心など皆な染汚と成る応し」 ウイグル文には「一切」にあたる alqu が抜けている．

20 「或は少分心は尋伺へ依となる故に」 inčä は yinčgä の誤り．「尋伺」＝ yuqun yinčgä saqïnč「粗い，細かい考察」．

21 「一切は有尋有伺と成るべし」

22 bu andaγ bolmayu tükädsär ol (2) nädägin antaγ bolz-un　此既不爾　彼云何然

23 atïrd öngi tïldaγ basudtγčï-lar-ïγ (3) bolmaz üčün bulγalï　差別因縁不可得故

24 又彼何能 yana siz-lär nädägin uyur siz (4) -lär tadγalï köngül-däki nom-ta ulatï-lar-nïng män atqaγ töz (5) bolur-ïn (nädägin tip tisär)　又彼何能遮心所等我執依性

25 bar ät'öz körüm adqanïp biš tudyaq (6) yükmäkig adqanγu uγuš qïlur üčün　以有身見縁五取蘊為境界故

26 anï üčün ol yörmiš-ingiz (7) -lär-ning yörüg-i odγuraq andaγ ärmäz tip　是故彼釈理定不然

27 経 birök andaγ ärsär (8) qayu tïldaγ-ïn söz-lati köngül bolur män tip　若爾何縁説心為我

28 衆 turγaru öz (9) adqanγu-sïn-ta ärkčä tapča yorïyur　恒於自境自在行故

29 我謂於自境 män (10) ärsär qaltï öz adqanγu-sïn-ta uzatï ärkčä tapča yorïdačï (11) ärür　我謂於自境常自在行

30 köngül-nüng arïdï bulduq-maz ödi yorïmaγuluq öz adqanγu (12) -sïn-ta　心曾無有時不行自境

---

22 「此れ爾らざりければ彼は云何然らん」

23 「差別の因縁などを1)不可なる故に3)得ること2)」 basudtči＝basudči cf. no. 102.

24 「又なんじら何ぞ1)能くするや4)遮すること3)心所等の我執性となるを2)」 nädägin tip tisär「如何にといわば」にあたる漢文はない. 「能」には常に u-...-γalï/gäli があてられている.

25 「有身見は1)縁じて3)五取蘊を2)境界と為す故に4)」

26 「是の故に彼の（なんじらの）釈の理は定んで然らず」 「而」は常に inčip 「但」は täk で表されている.

27 「若し爾らば何に縁りて1)説けるや5)心が2)為ると4)我と3)」

28 「恒に自境において自在に行ず」漢文の「故」にあたるウイグル語がない.

29 「我とは謂わく自境に於て常に自在行なり」 「謂」には常に qaltï があてられている. また「謂若」には qaltï birök, qaltï kim-lär があてられている.

30 「心の曾つて1)みつからざりし時4)行ぜざること3)自境に2)」 bulduqmaz = bul「見つける」-duq(passive) -maz(negative), ここでは「無有」にあてられている. 一方223では同じ形式が「無」に対して用いられている. 平行例を知らないが, bul- は bol-「なる, ある」である可能性もある.

31	anïn alqu köngül-nüng barča-nïng atï bolur män tip	故一切心　皆名為我
32	(13) näng alqu köngül-täki nom-lar ymä ök bulmamïš ol män tigüči (14) adïγ	非諸心所亦得我名
33	köngül-üg baš bašlaγ qïlmaq-ï üz-ä anï sudur-ta (15) yrlïqamïš ol yalnguz-ïn yorïdačï üčün	意為上首故　経説独行故
34	27A ol 'YYSL' SYB köngül-kä (1) tayaq-lïγ-ïn uyur üčün yorïγalï adqanγu-lar-ta tip	彼要依心能行境故
35	qaltï (2) alqu köngül-täki nom-lar-ïγ näčä ymä ök turuldursar yavaldur-sar (3) ymä ök	如諸心所　雖亦調伏
36	inčip täk yig-in tuda söz-lämiš t(ä)g turulmïš (4) yavalmïš köngül-lüg	而但就勝説調伏心
37	söz-lämiš ol män tip ymä andaγ oq	説我亦然
38	yalnguz köngül ök (5) köngül-däki nom-lar-qa ärmäz	唯心非所
39	若法与此 qayu nom bu oxšatï köngül (6) -kä qamaγ-lïγ-sïz asïγ qïlsar	若法与此似我之心　為不共益
40	anïng atï bolur ičtin sïngar-qï (7) tip	彼名為内

---

31 「故に一切心の皆の名は1)為す3)我と2)」
32 「諸の心所も亦1)得ざりき3)我という名を2)」　「非」の位置に näng「決して」が立っている.
33 「意を上首と為すことの故にそれを経に1)説けるが3)独行と2)故に4)」 üčün は yrlïqam.š ol のあとにくるのがふつう.
34 「彼は要ず心に依りて1)能くするが故に4)行ずること3)境などに2)と5)」
35 「諸の心所を亦調伏すといえども」　「如」は qalti...täg(36)があてられている.
36 「而も但だ勝に就いて1)説くが如し3)調伏心を2)」
37 「説けるも2)我と1)亦然り3)」
38 「唯，心は心所へ非ず」　「唯」には yalnguz があてられているが，ほかでは全て yintäm が立つ.
39 「若し法の此の似（我）心へ不共益を為せば」
40 「彼の名は1)為す3)内と2)」

41 munung tägšüt-inčä adïn nom-lar-nïng atï bolur ič-tin (8) taš-tïn sïngarqï tip　与此相違余法名外

42 anïn alqu köngül-däki nom-lar-nïng bolmaz (9) ičdin sïngar-qï bolmaq-lïγ mün-i qadaq-ï　故諸心所無成内失

43 yana alqu köngül-däki nom (10) -lar näčä yana köngül birlä bir tuγmaq-lïγ turmaq-lïγ ulatï ärsär (11) ymä　又諸心所　雖復与心一生住等

44 inčip köngül-nüng köngül-kä köni-sinčä atï bolur ičdin sïngar-qï (12) tip　而心望心　独名為内

45 非心所者 köngül-täki nom-lar ärmäz　非心所者

46 bir uγuš-luγ öngi uγuš-luγ (13) köngül-lär　同異類心

47 ödlüm ödlüm bir ikindi-kä körü-šü　展転相望

48 tayaq bolmaq-lïγ töz-ni (14) barča tidmäz-lär üčün　為所依性　皆不捨故

49 alqu köngül-däki nom-lar-ta öngi uγuš-lïγ-ï (15) köngül-kä körü　諸心所法　異類望心

50 27B adïrt-lïγ odγuraq tidip öngi üdrülür üčün (1) tayandačï töz-in　必定捨離能依性故

---

41 「此れの相違としての余法の名は1)なす3)内外と2)」　ič-tin「内」は不要.

42 「故に諸の心所の1)無し3)内と成る失は2)」

43 「又諸の心所は復た心と一生住の等なれども」「雖」は常に näčä...-sar/sär ymä で表される.

44 「而も心の心への望(？)として(その)名は1)為す3)内と2)」　漢文の「独」にあたるウイグル語はない. könisinčä は「誠実」を意味し,「望」にあてるのはむつかしい. あるいは kör「見る」-iš (dev. noun) -inčä (equative 3rd)？

45 「非心所」

46 「同異類心など」

47 「展転相い望み」

48 「所依と為るところの性を皆捨せざるが故に」

49 「諸の心所法において異類が心に望み」

50 「必定して1)捨離するが故に3)能依性を2)」

51	qaltï birök ädgü köngül ädgü-li kkir-lig-li ulatï (2) yaraš-sïz köngül-kä körü	謂若善心　望善染汚及無記心
52	tayaq töz bolsar barča tidip öngi (3) üdrülmäz	361A(1)　為所依性皆不捨離
53	kkir-lig yrlïγ-sïz köngül ymä andaγ oq ärür	染汚無記心亦如是
54	(4) 心所 birök ädgü köngül-täki nom-lar kkir-lig ulatï yrlïγ-sïz köngül-kä körü	若善心所望彼染汚及無記心
55	tidsär tayandačï töz-in kkir-lig yrlïγ-sïz-ï (5) adïnïnga körü ymä andaγ oq bolur	捨能依性　染汚無記望余亦爾
56	anïn köngül-üg köngül-ka körü (6) tayaq töz bolduq-ta bolmaz üčün bir ikindi-kä adïrïlïšmaz tïdïl (7) -ïšmaz-ï	故心望心為所依性無相間隔
57	bolmïš ol adï bolγalï ičdin sïngar-qï tip	得名為内
58	心所 (8) 望心 köngül-däki nom-uγ köngül-kä körü	心所望心
59	tayandačï töz bolsar bolur üčün bir (9) ikinti-kä atïrïlïšmaz tïdïlïšmaz-ï bulmamïš ol ičtin sïngar-qï tigüči (10) adïγ	為能依性　有相間隔不得内名
60	又 yana alqu köngül-täki nom-lar-nïng oxšadï köngül-kä körü	又諸心所　望同類心

---

51 「謂わく若し善心が善と汚染と及び無記心(？)に望み」　yaraš-sïz köngül は yrlïγ-sïz köngül の誤写か.

52 「所依性と為れば皆は捨離せず」

53 「染汚，無記心は是れ亦是の如し」「亦」には常に ymäが,「又」と「復」には yana があてられている.

54 「若し善の心所が染汚，及び無記心に望み」

55 「捨てなば2)能依性を1)染汚（その）無記は余に望んで亦た爾なり3)」

56 「故に心を心に望み所依性と為りしとき1)無きため3)相間隔2)」

57 「得たり4)（その）名は1)為り3)内と2)」

58 「心所を心に望み」

59 「能依性と為るならば1)有るために3)相間隔2)得ざりき5)内という名を4)」

60 「又諸の心所が同類心へ望み」

61 tayan (11) -dačï töz bolmaq-ï azu ymä üküš az-u ymä az bolur　為能依性　或多或少

62 köngül-nüng tayaq (12) bolmaq-ï ödrü andaγ munung uγur-ïn-ta ičdin sïngar-qï tigüči (13) ad turur köngül-tä nom-ta ärmäz tip　心為所依　則不如是由　此内名在心非所

63 門若 大地法 birök (14) andaγ ärsär uluγ orun-luγ nom-lar tägingü kärgäk ičdin (15) sïngar-qï tigüči adïγ tip　若爾大法応受内名

64 28A andaγ ärmäz köngül-däki nom-lar-nïng (1) arq-a uγuš-ï ardatγuluq bolur üčün　不爾心所朋類壊故

65 qaltï pardakčan-lar-ta (2) tüšmädäči törü-lüg-i täg　如異生中不随法者

66 46B yana kirsiz nom odγuraq körmäk-tä (5) tarγarγuluq ärmäz　362C(18)　又不染法　定非見断

67 anï üčün adqandačï niz-vanï-lar birdäm-lig tayanmïš öd (6) -tä timin ök adï bolur üčün tayanmïš tip　縁彼煩悩　究竟断時　方名断故

68 yana altïnč ärmäz (7) -tin tuγmïš-ï ymä ök andaγ körmäk-tä tarγarγuluq ärmäz　又非六生　亦非見断

---

61 「能依性と為ること或は多或は少なり」

62 「心の所依と為るは則ち是くの如く此れに由りて内という名は1)在る3)心に2)所に非ずと4)」 andaγ のあとに armäz が欠落している？

63 「若し爾らば大地法は1)受くべし3)内という名を2)と4)」

64 「爾らず心所の朋類は壊することとなる故」 ardatγuluqの t ははっきりしない. arq-a「背後」, arq-a uγuš で「朋類」.

65 「異生の中の不随法者の如し」 pardakčan=skt. pṛthag-jana

66 「又不染法は定んで見断に非らず」

67 「彼のために縁ずる煩悩は究竟してたよりし時，方に（その）名は1)なるが故に3)依と2)」 漢語の「断」に対してウイグル語は「依」が入っている。「方」(に) は timin (ök)が常に用いられる.

68 「又，非六生も亦かくのごとく見断に非ず」 altïnč ärmäz-tin tuγmïš「第六でないものから生じたもの」＝「非六生」

69 altïnč ärsär (8) qaltï köngül orun ärür　六謂意処

70 munda öngi inčip tuγmïš-qa adamïš ol altïnč　異此而生　名非六生
(9) ärmäz-tin tuγmïš tip

71 mundaγ köz-tä ulatï biš ärklig-lär-tin tuγmïš　是従眼等五根生義
(10) tip yörüg ol

72 即五識等 ol oq biš bilig-tä ulatï-lar (11)　即五識等　縁色等境
adqanïp öng adqanγuq tašγaru uγur-ïn　外門転故　非見所断
ävrilür üčün körmäk-ta (12) tarγarγuluq ärmäz

73 yana alqu öng nom-lar andaγ yana kir-lig　又諸色法　若染不染
kir (13) -siz nom-lar ymä ök körmäk-tä　亦非見断
tarγarγuluq ärmäz

74 qaltï kirsiz nom-lar (14) täg anï adqandačï　如不染法　縁彼煩悩
niz-vanï-lar-qa birdämläti tarγarmïš öd-tä　究竟断時　方名断故
timin (15) ök adï bolur üčün tayanmaq tip

75 47A 断義云何 tarïqmaq-nïng (1) yörügi ymä　断義云何　略有二種
qayu ol tip tisär qavïrasïnča bolur iki törlüg

76 (2) ang'ilki baγ-tïn öngi üdrülmäk üz-ä　一離縛断二離境断
tarγarmaq 二 ikinti adqanγu-tïn (3) öngi
üdrülmäk üz-ä tarγarmaq

---

69 「六とは謂わく意処なり」

70 「此れと異にして，而して生じたものへ1)名けたり3)非六生と2)」

71 「是のごとく眼等の五根より生じたという義なり」

72 「即ち五識等1)縁じて3)色境を2)外門で転ずるが故に見所断に非らず4)」 körmäktä tarγarγuluq「見において断つところのもの」＝「所見断」．このような「所」にはふつう -γuluq/gülük が用いられる．

73 「又諸の色法はかくのごとくまた染，不染法も亦見において断ずること非らず」

74 「不染汚の法の如く彼を縁ずる煩悩へ究竟して断ぜし時に方に(その) 名が1)なる故に3)依と2)」漢文「断」にたいして「依」がはいっている．

75 「断の義は何と云わば略して1)有り3)二種2)」

76 「一は離縛断，二は離境断」 baγ-tïn öngi üdrülmäk üz-ä tarγarmaq「縛から離れることにおいて断つこと」＝「離縛断」．

77 baγ-tïn öngi üdrülmäk üz-ä (4) tarγarmaq ärsär qaltï sudur-ta yrlïqamïš ol　離縛断者　如契経言

78 yoqadur-tuq-ta (5) ič-tin sïngar-qï köz uγuš-uγ čin-in-čä kirtü-sinčä bilür uqar (6) mn yoqad-turdum ičt-in sïngar-qï köz qošuγuγ tip　於無内眼結如実了知我無内眼結

79 47A 離境界者 adqanγu-tïn öngi üdrü (1) mäk üz-ä tarγarmaq (15) ärsär qaltï sudur-ta yrlïqamïš ol　離境断者　如契経言

80 47B siz-lär toyïn-lar-a kim-lär (1) usar köz-tä tarγarγalï amranmaq az-ïγ　汝等苾芻　若能於眼断欲貪者

81 munï üz-ä ödrü adï (2) bolur köz-üg birdämläti tarγarγalï umïš tip　是則名為眼得永断

82 abïdarmïkï-lïγ alqu (3) uluγ šastïrakarï baxšï-lar söz-lär　阿毘達磨諸大論師

83 ol käzig tizig-kä tayaq (4) -lïγ-ïn uqïdmïš ol iki törlüg tarγarmaq-lïγ　依彼次第　立二種断

84 一自性断 (5) ang'ilki öz töz-in tarγarmaq ikinti adqaγ-ïn tarγarmaq　一自性断　二所縁断

---

77 「離縛断とはまさに契経に言いけり」 yrlïqamïš ol は釈尊の言，すなわち「宣う」を表している．

78 「無くすることに於て2)内眼結を1)如実に3)了知す8)我は4)無くせし6)内眼結を5)と7)」

79 「離境断とはまさに契経に言いしものなり」 adqanγu-tïn öngi üdrülmäk「境から離断すること」＝「離境断」．

80 「汝ら苾芻よ1)若し2)能くするなら6)眼に於て3)断つこと5)欲貪を4)」「若」に対して kim-lär「だれか」があてられている．

81 「是れにおいて則ち名は1)為す3)眼得永断と2)」 köz-üg birdämläti tarγarγalï umïš「眼を永く断ち得るもの」＝「眼得永断」．

82 「阿毘達磨の諸大論師らいわく」 šastïrakarï < skt. śāstrakāra. abïdarmïkï-lïγ < skt. abhidharma -kï (chin. 経) -lïγ (所属)．

83 「彼の次第へ依りて1)立てた3)二種の断を2)」

84 「一は自性断二は所縁断」

85	qayu nom (6) munda qošuγ-uγ ulatï bir töz-lüg-tä uzaqï bolsar yöründäki (7) tuγmïš öd-tä anïng pirapdïsïn tarγarsar adamïš ol öz (8) töz-in tarγarmïš tip	363A(1) 若法是結及一果等 対治生時 於彼得断 名自性断
86	47B (11) anï tardmïš üčün adqanγu-luγ vastu-ta ödrü bolur baγ (12) -tïn öngi üdrülgäli	由彼断故於所縁事 便得離繫
87	odγuraq andaγ-ï pirapdï-qa (13) tükäl-lig bolmaq-ïn-tïn adamïš ärmäz adqaγ-ïn tarγarmïš tip	不必於中得不成就 名所縁断
88	(14) munda alqu ap ymä aqïγ-lïγ öng-lär-tä	此中一切 若有漏色
89	ap ymä kir (15) -siz aqïγ-lïγ öngsüz-tä	若不染汚 有漏無色
90	48A ulatï ol alqu tägmäk tuγmaq-ta (1) ulatï nom-lar	及彼諸得生等法上
91	bar körmäk-tä tarγarγuluq ulatï bïšrunmaq-ta (2) tarγarγuluq alqu qošuγ üz-ä qošulγuluq bolmaq-ï	有見所断及修所断 諸結所繫
92	munï munčulayu alqu (3) qošuγ-lar-qa ančan ančan k(ä)zig-čä tarγarmïš öd-tä	如是諸結 漸次断時

85 「若し法が是こに結を，及び一果(？)において，遠いものとなるならば(？)(その) 対治が生ぜし時に彼の得を断つならば1)名けたり3)自性断と2)」 pirapdï=skt. prāpti「得」. töz-lüg は tüš-lügの誤りであろう．国訳：「若し法，是れ結にして，及び一果等の対治の生ずる時，彼れに於て断を得るを，自性断と名く。」．すくなくとも「於彼得断」に対するウイグル語訳は誤り．

86 「彼を断じたるが故に所縁事に於て便ち1)得3)繫を離るるを2)」 vastu=skt. vastu「事」.

87 「必ずかくのごときものは得へ成就することから1)名けしにあらず3)所縁断と2)」 ウイグル文は漢文と少し異なる．国訳：「必ずしも中に於て，不成就を得ざるを，所縁断と名く。」.

88 「此の中に一切の若しくは有漏色に」 ap ymä は89の ap ymäと共に「若しくは…… 若しくは」を表す.

89 「若しくは不染汚，有漏の無色に」

90 「及び彼の諸の得生等の法に，」

91 「有り2)見所断及び修所断の諸結における所繫となること1)」 körmäk-tä tarγarγuluq「見において断つところのこと」=「見所断」. bïšrunmaq-ta tarγarγuluq「修において断つところのこと」=「修所断」.

92 「是くの如き諸結へ漸次に断ぜし時に」

93 bir bir (4) böluk-täki öngin öngin angayu töz-lär-tä u　於一一品各別体上

94 tursar baγ-tïn (5) öngi üdrülmäk-lig pirapdï ol öd-tä ol alqu qošuγ-lar ulatï (6) bir tüš-lüg-tä ulatï-lar-nïng barča-nïng adï bolur tarïqu (7) tükädmiš tip　起離繫得時彼諸結及一果等　皆名已断

95 彼有漏色 ol aqïγ-lïγ öng-lär-tä (8) ulatï kirsiz　彼有漏色　及不染汚

96 aqïγ-lïγ öngsüz-tä birlä yana alqu tägmäk tuγmaq (9) -ta uladï nom-lar ta　有漏無色　并彼諸得生等法上

97 alqu barča-tïn öngi üdrülmäk-lig (10) pirapdïγ　諸離繫得

98 ol öd-tä turγurmïš-qa adï bolmaz tarïqmïš tip　爾時未起　未名為断

99 (11) ol alqu nom-lar yintäm ol orun-taqï qamaγ-ta ang kinki oq (12) -suz yol iyin tarïqur üčün　由彼諸法唯随彼地最後無間道諸断故

100 näng alqu körmäk yol üz-ä (13) uyur ärmäz üčün adïrt-ï iyin iyin käzig-čä kir-tin öngi (14) üdürülgäli　非諸見道　能随地別次第離染

101 nädägin uzun tarγarγalï ol öng-tä nom-lar-ïγ　云何能断彼色等法

---

93 「一一の品にある各別の体に於ける」

94 「起こすならば2)離繫得を1)その時に彼の諸結及び一果等などの皆の名は3)なる5)已断と4)」 baγ- tïn öngi üdrülmäk-lig pirapdï「繫から離れることの得」=「離繫得」. 漢語の「已」には常に -u/ü(gerund) tükät- があてられている.

95 「彼の有漏の色に及び不染汚の」

96 「有漏の無色に幷に諸の得生等の法らに」　「幷」には birlä yana「ともにまた」があてられている.

97 「諸の離繫得を」　barča は baγ のあやまり. cf. 94.

98 「爾の時に起きしことへ（その）名は1)為さず3)断と2)」　turγurmïš は turγurmamïš「起こらなかった（こと）」の誤りであろう.

99 「彼の諸法は唯だ彼の地にありし最後の無間道に随いて断ずるが故に」

100 「諸の見道において1)能くせざるがため3)（その）別に随いて次第として染を離るること2)」 国訳「能く地の別の次第に随って，離染するに非ず。」

101 「云何ぞ1)能くせんや4)断ずること3)彼の色（等の）法などを2)」　öng-tä のあとに ulatïlar-nïng「等の」がぬけている.

102	48B tüz (15) -ün-lär kirtü-sin körmiš-lär ärsär alqu ayïγ ažun-taqï (1) nom-lar-nïng qamaγ basudčï-sï ägsük üčün bulu tüküdür tuγmaq (2) -sïz-ïn	見聖諦者　諸悪趣法衆縁闕故　已得不生
103	anï adqanγučï niz-vanïlar-ïγ tarγarmaduq alqmaduq üčün	縁彼煩悩未断尽故
104	(3) anïlayu oq adï bolmaz tarïqmïš tip	猶未名断
105	問若法未断 qayu nom (4) tarïqmadïn bulu tükädsär tuγmaq-sïz-ïγ azu-ča ymä tükäl (5) -lig bolmasar	若法未断已得不生　或不成就
106	munta tarïqu tükädmäk birlä bar qayu (6) adïrtï tip	此与已断有何差別
107	52B alqu nom-lar-ta (6) yintäm iki törlüg nom-lar oq ärür körüm-nüng öz töz-i	363C(15)　一切法中唯有二法　是見自体
108	önglüg (7) nom-lar-ta yintäm köz-nüng ärür körüm	有色法中　唯眼是見
109	öng-süz nom-lar-ta uγur-ï (8) yaruq yašuq yti sikiz adqanγu uγuš-uγ yinčürdäči izdätäči	無色法中　行相明利推度境界

---

102 「見聖諦は諸の悪趣にありし法の衆縁の闕けている故に1)得已う3)不生を2)」　tüz-ün-lär kirtü-sin körmiš-lär 「聖（者）などの諦を見たもの」＝「見聖諦」. ayïγ ažun「悪い世界」＝「悪趣」. qamaγ basudčï「全てのよりどころ」＝「衆縁」.

103 「彼に縁るものは煩悩を未だ断尽せざるが故に」　adqanγučï は a'dqanγučï, tarγarmaduq は ta'rγarmaduq とかかれている. 国訳「彼の煩悩，未だ断尽せざるに縁るが故に」.

104 「猶お（その）名は1)ならず3)断と2)」　「猶(お)」には常に anïlayu oq があてられている.

105 「若し法が未だ断ぜず1)，得已り3)不生を2)，或はまた成就せざれば4)」

106 「此こで已断と1)有りや3)何の差別2)と4)」　tarïγu tükädmäk 「断じ已えること」＝「已断」.

107 「一切の法における唯二種の法は1)なり3)見の自体2)」

108 「有色法において唯眼のもののみ1)なり3)見2)」　köz-nüng は köz ök のあやまりか.

109 「無色法において行相（？）は明利，境界を推度するもの」　uγur は「行相」にあてられているが，ふつうは「原因」「理由」「機会」を表す.

110	(9) ičgärü uγur-ïn ävrilür üčün bilgä bilig ärür ol körüm adïn (10) -lar-ï ärmäz	内門転慧　是見非余
111	munda köz-nüng töz-i qaltï öngdün söz-läyü tükädmiš (11) täg tidir yirtinčü-täki-lär-kä yomγï-qa bililmiš	此中眼相　如前已説　世間共了
112	üčün körmäk (12) yaruq yašuq öngüg qarangγu tägšüd-inčä üčün iš-i küdük-i (13) yaruq yašuq yti sikiz üčün	観照色故　闇相違故　用明利故
113	söz-lämiš ol köz-nüng adï bolur (14) körüm tip	説眼名見
114	biš kir-lig körüm-lär-ig anušayakoš-ta kin uqïdγay (15) biz anïng tözin	五染汚見　随眠品中当弁其相
115	53A yirtičü-lüg köni körüm ärsär qaltï köngül bilig birlä (5) yaradïlmïš ädgü aqïγ-lïγ yig atruq bilgä bilig	362C(20)　世間正見　謂意識相応　善有漏勝慧
116	53B ang'ilki köni körüm tigüči sav-ta tükäl tudulur üčägü	363C(23)　一正見言具摂三種
117	angaru (4) adïrïp üč qïlmaq-ï ärsär uqïdγalïr üčün ärür pardakčan (5) bošγut-luγ bošγut-suz orun üz-ä üč körüm-lär-ning adïrïl (6) -mïš-ïn	別開三者　為顕異生学無学地　三見別故

110 「内門に転ずるがために慧は1)なり3)見2)余に非ず4)」　ävrilür は 'ävrilür とかかれている.

111 「此において眼の相は前に説き已えたるが如く1)といわる3)世間へ共に了した2)」

112 「故に3)観ずるが2)照色を1)闇の(その)相違としての故に(その)用が明利故4)」　最初の üčün「故に」は körmäk のあとにくるのがふつう.

113 「説けり4)眼の名が1)なると3)見と2)」

114 「五の染汚の 見を 随眠品に當に 1) 弁ぜん (われらは) 3) 其の相を 2)」　anušayakoš=skt. anuśayakośa, skt. anuśayakośa-sthāna-「随眠品」(平川彰ほか『倶舎論索引』第一部1973年 p.27). 「当(に)」に対して157では inčip があてられているが, ここでは kin「後に」があてられている. kin の立つ例は Or. 8212-75A の 94a, 117a, 128b に見られる.

115 「世間の正見とは謂わく意識と相応せし善の有漏の勝慧」　atruq は 'truq とかかれている.

116 「一の正見という言に具は1)摂す3)三(種)を2)」

117 「別開して2)三を1)為すこと3)顕わす故なり5)異生, 学, 無学地において三見の別となりしことを4)」

118	yana uqïdγalïr üčün ärür ančan ančan käzig-čä (7) bïšrunmaq ögrädinmäk-ning tuγmïš-ïn	又顕漸次修習生故
119	53B inčä qaltï tün (9) ülüš-in-tä ay-ta ulatï-lar-nïng yaruq yoq-ïn-ta bulïd (10) BU""Q bük bolup qararmïš-ïn-ta inčip käz-ä yorïduq-ta (11) učrum ada-lïγ-qa	363C(24) 譬如夜分無月等明雲霧晦冥而遊険阻
120	körgülük-čä öng-lär-ning körk (12) -lär-ning bolmaz ärsär tädrü ärmäz bolmaq-ï	所見色像無非顚倒
121	biš törlüg kkir-lig (13) körüm-lär üz-ä nomuγ körmäk ymä andaγ oq ärür	五染汚見 観法亦爾
122	54A inčä (14) qaltï tün ülüš-in-tä ulatï-lar-nïng yaruq-ï bar-ïn-ta (15) öngi kidärip alqu bük üz-ä qararmaq-ïγ inčip käz-ä (1) yorïduq-ta učrum ada-lïγ-ta	譬如夜分有月等明除諸晦冥而遊険阻
123	körgülük öng-lär körk-lär (2) yarïm-ča yruq arïγ bolmïš täg	所見色像少分明浄
124	yirtinčü-lüg köni körüm üz-ä (3) nomuγ körmäk ymä andaγ oq ärür	世間正見 観法亦爾

---

118 「又1)顕す故なり3)漸次修習の生を2)」

119 「譬えば夜分に月等の明無きに雲霧晦冥せしときに而して1)遊びしとき3)険阻に2)」 BU"" Q＝霧？ cf.128.「譬如」は inčä qaltï...-ta(täg)で表される. bük bolup qaranmïš＝「晦冥」, bük はふつうは「茂み」を表す.

120 「所見として色の像の1)無ければ3)顚倒ならざること2)」

121 「五しゅの染汚の見において法を観るも亦爾なり」

122 「譬えば夜分において＜月＞等の明有ることに おいて 1)除き 3)諸晦冥を 2)而して4)遊ぶとき6)険阻に5)」 ülüš-in-tä のあとに ay-ta「月」(locative) がぬけている. bük üz-ä qaranmaq＝「晦冥」. cf. 119.

123 「所見の色像，少分明浄となりしが如し」

124 「世間の正見において法を観るも亦爾なり」

125 inčä qaltï (4) kün-düz ülüš-in-tä bulïd tuman yuqaru aγdïnïp ördmiš (5) kölidmiš-in-tä kün tngri tilgän-in inčip käz-ä yorïduq-ta tüz (6) tašang orun-ta

譬如昼分雲翳上昇掩蔽日輪而遊平坦

126 körgülük-čä öng-lär ančan ančan ükliyü (7) közünmiš-i täg

所見色像漸増明浄

127 bošγut-luγ köni körüm üz-ä nomuγ körmäk ymä (8) andaγ oq ärür

有学正見　観法亦爾

128 inčä qaltï kün-düz ülüš-in-tä 然日舒光 (9) kün tngri-ning y(ï)rdïlmïš isig čoγ-ï üz-ä bulït BU""""Q arïγ (10) -layu tigü täg ačïlduq-ïn-ta inčip käzä yorïduq-ta tüz (11) tašang orun-ta

譬如昼分烈日舒光雰霧廓清而遊平坦

129 körgü-lük-čä öng-lär körk-lär qamaγ (12) -ta yruq arïγ bolmïš-ï täg

所見色像最極明浄

130 bošγud-suz köni körüm üz-ä (13) nomuγ körmäk ymä andaγ oq ärür

無学正見　観法亦爾

131 如如行者 anča anča (14) yogačarï-lar ančan ančan ögrädinip bilgä bilig-ig tuγur (15) -maq-ta

如如行者漸習慧生

125 「譬えば昼分における雲霧が上に昇り 1)掩蔽せしことにおいて 3)日輪を 2)而して 4)遊びしとき 6)平坦の地に5)」　tašang については，庄垣内『ウイグル語・ウイグル語文献の研究 I』(1982年 p.164 註112) を参照．「雲翳」に対して bulïd tuman「雲霧」が入っている．

126 「所見としての色は漸く増して明浄になりしが如し」「明浄」közün- に対して123 などではyruq arïγ bol- が立つ．öng-lär のあとに körk-lär (像) がぬけている．

127 「有学の正見において法を観るも亦爾なり」

128 「譬えば昼分において日の舒せし熱き（烈しき）光において雰霧を清めるがごとくに廓げたときに而して1)遊びしとき3)平坦地に2)」　「清めるがごとく」は arïγ-layu tigü täg「清めているのごとく」と直訳できる．BU""""Q＝霧？

129 「所見としての色像は最極において明浄なるが如し」

130 「無学の正見において法を観るも亦爾なり」

131 「如如の行者は漸く習して慧を生ずることにおいて」　anča ančaは'NC' 'NC' とかかれている．'NC' は *näčä* とよむべきか．国訳「如如の行者の漸習生として，」．

132 54B tarγarmïš-ča öz köngül-täki bilig-siz-lig qarangγu (1) -nung adïrt-tïn anča anča oq

除自心中愚闇差別 如是如是

133 alqu adqaγ-ïn-ta köni körüm (2) ančan ančan ükliyü arïγ yruq bolmaq üz-ä adïrt öngi bolur (3) adqanγu-luq adqanγu-sï arïγ kkir-lig bolur ärmäz

於諸所縁 正見漸増明浄有異 非所縁境 有浄不浄

134 tuyunmaq bilgä (4) bilig-ning kkir-i tïdïγ-ï bar yoq bolmïš täg üčün anïn qaltï (5) adqaγ-ï-nïng bolur arïγ-ï kkir-lig-i

由自覚慧垢障有無 故謂所縁有浄不浄

135 munï alqu körüm-lärig yomdarsar (6) uγuš üz-ä bolur biš

如是諸見 総類有五

136 一yrlïγ-sïz uγuš-luγ 二 ikinti kkir-lig (7) uγuš-luγ 三 üčünč ädgü aqïγ-lïγ uγuš-luγ 四 törtünč bošγud (8) -luγ uγuš-luγ bišinč bošγud-suz uγuš-luγ

一無記類 二染汚類 三善有漏類 四有学類 五無学類

137 無記類中 (9) yrlïγ-sïz uγuš-taqï köz ärklig ärür köz

無記類中 眼根是見

138 qulγaq-ta ulatï (10) alqu ärklig-lär alqu ördüg-süz yrlïγ-sïz bilgä bilig-tä (11) ulatï-lar alqu barča körüm ärmäz

耳等諸根 一切無覆無記慧等 悉皆非見

---

132 「除きしがごとき自心中の愚闇の差別 是の如し是の如し」 国訳では「自心の中の愚闇を除くが如き差別，是の如し．是の如し．」とある．adïrt のあとに -tïn ともよめる一形式がある．

133 「諸の所縁において正見が漸く増して明浄なることにおいて異有るは所縁の境が浄，不浄有るに非ず」 arïγ yruq bolmaqはyruq arïγ bolmaq「明浄」の誤り．

134 「覚慧の垢障が有無となりしがごとき故．ゆえに謂わく所縁の1)有り（という）3)浄，不浄2)」

135 「是の（ごとく）諸見を総ぶるならば類に1)有り3)五2)」 munï の後に munčulayu がぬけている．

136 「一は無記類，二は染汚類，三は善有漏類，四は有学類，五は無学類」

137 「無記類中，眼根は1)なり3)見2)」二つめの köz は körüm「見」の誤り．

138 「耳等の諸根など一切の無覆無記の慧等は悉く皆な見に非ず」

139	kkir-lig uγuš-taqï biš körüm-lär (12) ärür körüm	染汚類中　五見是見
140	adïn kkir-lig bilgä bilig-lär alqu barča körüm ärmäz	余染汚慧　悉皆非見
141	(13) qaltï az övkä küvänč qamaγ-lïγ-sïz bilig-siz sizig birlä (14) tuγmïš bilgä bilig-lär ärür	謂貪瞋慢不共無明疑俱生慧
142	adïn kkir-lig nom-lar ymä ök (15) barča körüm ärmäz	余染汚法　亦皆非見
143	55A 有学類中 bošγud-luγ uγuš-taqï aqïγ (1) bilgä bilig ärür körüm	有学類中　無慧非見
144	bošγudsuz uγuš-ta öngi kidärip (2) alqïnču Y"L' tuγmaq-sïz bilgä bilig-lär-ig adïn bošγu (3) -dsuz bilgä bilig-lär alqu barča ärür körüm	但余非見　無学類中尽無生智及余非見　余無学慧一切是見
145	ädgü aqïγ-lïγ (4) uγuš-ta yintäm köngül bilig birlä yaradïlmïš ädgü bilgä bilig (5) ärür körüm	善有漏類中　唯意識相応善慧是見
146	atïn-lar-ï alqu barča körüm ärmäz tip 有 (6) 余師説 bar adïn baxšï-lar söz-lär	余皆非見有余師説

139 「染汚の類中の五見は1)なり3)見2)」

140 「余の染汚の慧などは悉く皆な見に非ず」

141 「謂わく貪，瞋，慢，不共の無明疑倶生の慧などなり」　qamaγ-lïγ-sïz「皆とともでない」＝「不共」.

142 「余の染汚の法なども亦，皆な見に非ず」

143 「有学類中の漏慧は1)なり3)見2)」　ウイグル訳は漢文と一致しない．国訳：「有学の類中，慧にして見に非ざるなし。」.

144 「無学類において1)除き3)尽Y"L'，無生智を2)余の無学の慧は一切4)なり6)見5)」　ウイグル文は漢文と異っている．国訳：「但だ余は見に非ず。無学の類の中，尽と無生智と及び余は見に非ず。余の無学の慧は，一切是れ見なり。」.

145 「善の有漏類において唯だ意識と相応せし善慧は1)なり3)見2)」

146 「余は皆な見に非ずと有余師が説く」　「有余師」＝「他の或る人びと．正統派の論師が異端の論師をよぶ称．また名を示すに値しない学者をよぶ称」(中村元『仏教語大辞典』上 p.88)．この漢語に対してウイグル語は bar「有」adïn「余」baxšï「師」と逐字訳している.

147	köngül bilig birlä yaradïl (7) -mïš ädgü aqïγ-lïγ bilgä bilig ymä ök körüm ärmäz bolur	意識相応善有漏慧　亦有非見
148	qaltï (8) biš bilig-lär quvraγ-ï üz-ä tardïlïp tuγmïš bilgä bilig (9) birlä uqïdur-uγ tuγurdačï bilgä bilig ölmiš ödki bilgä (10) bilig ärür 又 yana ölgäysük ödtäki ymä/tir	謂五識身所引発慧　発有表慧　命終時慧
149	yana ädgü aqïγ (11) -lïγ uγuš-taqï biš bilig-lär birlä tuγmïš bilgä bilig ymä (12) ök körüm ärmäz tip	又於此善有漏類中　五識俱生慧亦非見
150	57B andaγ ärmäz köz bilig-i-ning küči üz-ä särgürüp (15) tudmaqlïγ yig adruq iši tuγar üčün	364B(2)　不爾　眼識力所住持　勝用生故
151	58A odung-nung küč (1) -ingä tayaq-lïγ-ïn yig aduruq iš-lig oot tuγmïš-ï (2) täg	如依薪力勝用火生
152	birök öng körmäk iš ärür bilig-ning törülügi tisär	若見色用是識生法
153	(3) bu öngüg körmäk iš köz-tä öngi tuγγu kärgäk	此見色用離眼応生
154	由識長 (4) 益 bilig uγur-ïn-ta üklip ašïlïp birlä tuγmïš max-a (5)but-ï kim tuγurmaq	由識長益俱生大種　令起勝根

147 「意識と相応せし善有漏慧も亦，見に非ざる有り」　aqïγ は a'qïγ とかかれている．

148 「謂わく五識身において引発せし慧と有表を発する慧と命終時の慧なり」　「五識身」の「身」はここでは複数(plural)を表しているが，ウイグルではこれに quvraγ(「集まり」) があてられている．「又」以後は ölmiš ödki の註記，öl-「死」-gäy(future) -sük(dev. noun)？

149 「又善の有漏類中，五識俱生の慧も亦，見に非ず」

150 「爾らず。眼識の力において住持することもて勝用生ずるが故に」

151 「薪の力に依りて勝用の火生ぜしが如し」　aduruq < adruq

152 「若し色を見る用1)なり3)識の（生）法2)というならば4)」

153 「此の色を見る用は眼を離れて生ず応し」

154 「識に由りて長益し俱生の大種が1)起こさしむることにおいて3)勝根を2)」　max-a but＝skt. mahā bhūta 「大種」「令」に対してkim「だれか」……(tur)-ur(causative)-(maq) があてられている．cf. 庄垣内 (1982) p. 208, K六-8.

üz-ü yig adruq ärklig-ig

155 uyur körgäli (6) qama$_\gamma$ öng-lär-ig 能見衆色

156 anïn tägimlig ärmäz söz-lägäli tayandačï bilig (7) körür tip 故不応説能依識見

157 kim bol$_\gamma$ay bilgä-lär-tä inčip qïldačï bu sav-ï$_\gamma$ 誰有智者 当作是言

158 (8) kim bar ärsär avant tïlda$_\gamma$ tu$_\gamma$ur$_\gamma$(a)lï udačï bilmäk adïrt-lamaq (9) -ï$_\gamma$ 諸有因縁能生了別

159 munda$_\gamma$ ušu$_\gamma$-lu$_\gamma$ bilmäk atïrdlamaq ärsär ol oq avant (10) tïlda$_\gamma$ ärür tip 如是了別 即彼因縁

160 bilig ärür üčün körüm-nüng tïlda$_\gamma$-ï anïn (11) körüm töz-lüg ärmäz tip 識是見因 故非見体

161 59A (10) yukdï-lar agam-lar yoq üčün 364B(8) 理教無故

162 yukdï yoq tip timiš-i ärsär (11) qul$_\gamma$aq-ta ulatï bilig-lär birlä adïrt-sïz üčün 言理無者 与耳等識無差別故

163 köz bilig-i (12) -ning qul$_\gamma$aq-ta ulatï alqu bilig-lär birlä bar qayu adïrt-ï 眼識与彼耳等諸識 有何差別

164 (13) inčip säčä adï bolur üčün körüm tip anïn tägimlig (14) ärmäz söz-lägäli bilig bolur körüm töz-lüg 而独名見 故不応言識為見体

---

155 「能くす3)見ることを2)衆色を1)」

156 「故に1)応からず4)説く3)能依の識を見ると2)」

157 「誰か1)有らんや5)智において當に2)作すもの4)是の言を3)」

158 「たれか有るならば4)因縁の1)生じ能うもの3)了別を2)」 「諸有」(「あらゆるもの全て」) に対して, kim bar ärsär「だれか有るなら」があてられている.

159 「是の如きの了別は即ち (彼の) 因縁なりと」

160 「識は1)なるがゆえ3)見の因と2)故に見体に非ずと4)」 漢語「故」に対しては, ふつう üčün が用いられるが, üčün「故に」.....anïn「それで」, あるいは anïn のみの使用もある. üčün は漢文語順に従わず常に理由を表す語に直接後続する.

161 「理など教など無きが故に」 yukdï=skt. yukti「理」. agam=āgama「教え」.

162 「理無しと言いしは耳等の識と無差別の故」

163 「眼識の耳等の諸識と1)有るや3)何の差別の2)」

164 「而して独りその名は1)なるがゆえ3)見と2)故に4)応からず9)言う8)識は5)為ると7)見体と6)」 säčä=säč「選ぶ」-ä (gerund) =「選んで」. ここでは「独」にあてられている.

165	59B 答謂 birök (15) söz-läsär siz-lär tayan$_\gamma$uluq ärklig-lär adïrï(l)mïš üčün adïn (1) bilig-tä öngi ärür tip	若謂所依根差別故異余識者
166	yörüg töz-in-täki-čä (2) ärsür tägimlig ärmäz anda$_\gamma$ bol$_\gamma$alï	理不応然
167	bilig tayaq u$_\gamma$ur-ïn-ta adïrïlmïš (3) üčün täk tapladïlar ärdi tägšilip (4) köz bilig tigüči adï$_\gamma$ bulmïš	識由所依有差別故　但可想転得眼識名
168	tägimlig ärmäz tayaq-ï adïrïlmïš (5) üčün nom töz-i tägšilip ärü ärü körüm töz (6) -lüg bol$_\gamma$alï	不応所依有差別故　法性改易　転成見体
169	qaltï ot ï$_\gamma$ač-qa ud mayaq-ïnga qï$_\gamma$-qa (7) tayaq-lï$_\gamma$ od at näčä tägšilsär ymä	如依草木牛糞糠火　名雖改易
170	inčip išig töz (8) -lär-i bir täg bolmïš-ï täg	而媛性同
171	alqu bilig-lär-ning bir ikinti-kä (9) körüšü öz töz üz-äki u$_\gamma$uš-ï adïrt-sïz ärür	諸識相望　性類無別
172	söz-läsär (10) yintäm köz-kä tayaq-lï$_\gamma$ bilig körür adïn-ï ärmz	言唯依眼識見非余
173	説隨 (11) 情 munï köngül iyin söz-lämiš ol köni yörüg-kä tayaqlï$_\gamma$-ïn (12) ärmäz	此説隨情不依正理

165 「若し1)謂わば(なんじら)3),所依の根を差別したるが故に余識に異なると2)」 adïrï(l)mïš は "DYRY'MYŠ とかかれている.

166 「理性にあるものとしてならば1)応からず3)然る2)」 bol$_\gamma$alïはbol$_\gamma$a'lï とかかれている.

167 「識は所依に由りて差別したるが故に,但,うけいれけり,転じて眼識という名を得たり」 ウイグル文は理解しがたい.想転は「阿含経」では saqïnč-tïn ävril- として表されている (庄垣内1982 p.129 106).

168 「応からず2)所依が差別したるが故に法性改められ転じて見体を成ず1)」 tägšilip のあとに丸でかこんだ ärmäz tayaq-ï があるが,この二語は不要.

169 「草木に,牛糞に,糠に依る火が名をいかに改易すと雖も」

170 「而も媛性は同じきが如し」

171 「諸識の相望んで性にある類は無別なり」

172 「言うならば2)唯,眼に依る識を見るは余には非ずと1)」 国訳:「唯,眼識に依りて見にして余に非ずと言ふは,」.

173 「此を情に随いて説けり,正理に依るにあらず」

174 birök munda öngüg adqanmïš üčün anïn körüm (13) bolur tip tisär 若此緣色故成見者

175 öngüg adqandačï köngül bilig ymä ök (14) körüm bolγu kärgäk tip 緣色意識亦応成見

176 61A 61B birök söz-läsär-siz köz bilig-i ärür kördäči (14) köz ärmäz tip yirtinčü-kä qaršï bolur yirtinčü-täki-lär (15) täk söz-lämiš-lär ol közsüz-nüng adï bolur täglük tip (1) 非無眼識 näng köz bilig-i yoq oq ärmäz 364C(6) 又説 眼識是見非眼 世間相違世間但説無 眼名盲非無眼識

177 qaltï (2) täglük bolmäq täk köz-kä tükäl-lig bolmamaq uγur-ïn-ta (3) ärür köz bilig-ingä tükäl-lig bolmaq birlä yana tükäl-lig (4) bolmamïš uγur-ïnda ärmäz 謂盲但由不成就眼 不由眼識成与不成

178 ikinti dyan-ta yuqaru tuγmïš-lar (5) -nïng anda köz bilig-in yüüz yügärü qïlmaduq öd-tä köz bolup (6) bilig yoq bolmaq üz-ä bolur ärmäz täglük adaγalï 非生第二静慮以上 於彼眼識不現前時 有眼無識可名盲者

179 yana alqu (7) täglük-lär-ning näčä ägsük ärsär ymä köz ärklig-i 又諸盲者 雖闕眼根

---

174 「若し此こで色を縁じたるが故にそれもて見を成ずるといわば」

175 「色を縁ずる意識も亦，見を成ず応しと」

176 「もし（なんじら）説くならば5)眼識は1)なり3)見2)眼に非ずと4)，世間に相違す，世間のものは但だ6)説けり 10)無眼の名は 7) なると 9) 盲と 8) けっして眼識無きには非ず 11)」 közsüz は KUYSUS とかかれている．

177 「謂わく盲となるは但だ眼を成就せざるに由るなり，眼識への成とまた不成とに由らず」

178 「第二静慮以上に生じたるものが彼こで眼識を現前せざりし時に眼有りて識無きにおいて1)可きには非ず3)盲者と名く2)」

179 「又諸の盲者の1)闕くと雖も3)眼根を2)」

180 inčip (8) tükäl ärdüki üz-ä köz bilig-i adï bolmaγu kärgäk täglük tip　而成眼識　応不名盲

181 (9) ymä ök yana tägimlig ärmäz adaγalï körmäk-siz tip　亦復不応名無見者

182 若言 (10) 見識 birök söz-läsär siz-lär kördäči bilig yüüz yügärü (11) bolmaduq üčün　若言見識不現前故

183 näčä yana tükäl-lig bolmasar ymä inčip söz (12) -lämïš ol bolur täglük tip　雖復成就　而説為盲

184 munï üz-ä ödrü yirtinčü-täki (13) alqu köz-lüg-lär-ning bilig-i tuγmaduq tuš-ta ymä ök (14) adï bolγu kärgäk tägluk tip　是則世間　諸有目者識不起位応亦名盲

185 73B 74A 有情眼根 tïnlγ (15) -lar-nïng köz ärklig-i säviglig sävigsiz öng-lär-i üz-ä tïdïlγuluq (1) tudulγuluq bolur tip　370A(9)　有情眼根愛非愛色之所拘礙

186 bir ikinti-kä tägmäz-kä tïdïlmaq (2) tudulmaq-lïγ yörüg büdär ärmäz tip　非不相至　拘礙義成

187 74A 74B 釈曰 (15) 境相至 ärklig-lär-ning adqanγu-lar-nïng bir ikinti-kä (1) tägmäk-ning anïng yörügi odγuraq-sïz ärür　370A(12)　根境相至其義不定

188 birök ädräm (2) tuda adqanγu-lar-qa tägmäk-ning adï bolur tägmäk tip　若就功能到境名至

180 「而も1)成じたることにおいて3)眼識が2)（その）名は4)なる応からず6)盲と5)」

181 「亦，復た1)応らず4)名ずく3)無見者と2)」

182 「若し1)言うならば（なんじら）7)，見識が現前せざりしが故に2)」 和訳の番号は 182 から184までにおよぶ．

183 「復た成就せずと雖も而も3)説けりと6)為すと5)盲と4)」

184 「是れにおいて則ち世間の諸の目有る者らの識が起らざりし位においても亦（その）名は8)なる応し10)盲と9)」

185 「有情の眼根は愛，非愛の色において拘礙せらるる所なりと」

186 「不相至への拘礙の義が成ずること非ず」

187 「根の境の相至の其の義は不定なり」

188 「若し功能に就いて境へ到ることの（その）名は1)なる3)至と2)」 tuda は tudsar の誤りか？

189 ödrü (3) alqu ärklig-lär yintäm alïr üčün tügmiš-täki adqanγuγ — 則一切根唯取至境

190 birök (4) töz-i-ning bärgü-sining uγuš-ïn tudsar adï bolur tagmäk (5) tip — 若就体相無間名至

191 75A (2) divatad-ta ulatï-lar-nïng bolur ärmäz yorïmaq täpinmäk-lig (3) törü-si — 370A(17) 非天授等有行動法

192 ïraq yaqïn iki bulung yïngaq-lar-ta bir öd-tä (4) birgärü täggü-lük — 遠近二方一時俱至

193 anï üčün köz ärklig alïr tägmäz-känki adqanγuγ — 是故眼根取非至境

194 (5) birök söz-läsär qaltï yruq ïraq yaqïn adqanγu-lar-ta bir (6) ödtä birgärü tägmiš täg ärür üčün ol töz-lüg tip — 若説如燈 於遠近境一時俱至 是彼性故

195 bu söz (7) -lämiš-ingiz-lär andaγ ärmäz tïldaγ-ï büdmäz üčün — 此説不然 因不成故

196 謂若有説 (8) qaltï kim-lär birök söz-läsär inčä qaltï yula yaruq-ï ïraq (9) yaqïn iki bulung yïngaq-lar-qa birgärü tägip inčip yarudmïš (10) täg — 謂若有説 譬如明燈遠近二方俱至而照

---

189 「則ち一切根は唯だ1)取るゆえ3)至境を2)」

190 「若し（その）体相の類に就くならば（その）名は1)なる3)至と2)」 ウイグル文は漢文とすこし異なる.

191 「天授等の1)有ること非ず4)行動の法が2)」 divatad＝skt. devadatta「天授」. 和訳の番号は192番におよぶ.

192 「遠近二方に一時に倶して至ること3)」

193 「是の故に眼根は1)取る3)非至境を2)」 täg「至る」-mäz (negative aorist) -kän (past) -ki (adjective)?

194 「若し1)説くならば6)燈が遠近の境において一時に倶して至りしが如し2)なるが故に4)彼の性3)と5)」 燈にあたる yruq は YUQ とかかれている. あるいは yula とかかれるべきか. cf. 209, 196, 198, 202 etc.

195 「此の（なんじらの）説は然らず（その）因が成ぜざるが故に」

196 「謂わく，たれか若し1)説くならば6)譬えば明燈が遠近二方へ倶に至りて而して照らすが如く」和訳の番号は196から198までにおよぶ.

197 köz ärklig ymä andaγ oq 眼根亦爾

198 ïraq yaqïn iki adqanγu-larïγ (11) birgärü tägip inčip alïr ol yula yaruq-ï birlä bir täg ot (12) yruq töz-lüg üčün qaršï bolušmaz tip tïldaγ-ïngïz-lar (13) büdmäz 遠近二境俱至而取 同彼明燈火明性故 此因不成

199 眼火明性 köz-nüng ot-nung yruq töz-lüg (14) -i bolmaq arduqraq büdmiš ärmäz üčün 眼火明性非極成故

200 yana köz-kä tägimlig ärmäz (15) munda ot yruq-ï töz-lüg bolγalï 又眼不応是火明性

201 75B qarangγu-ta küsäsär (1) tiläyür üčün yruq yašuq-uγ 闇中欲見求光明故

202 näng yula uγramïš öd (2) -tä yarudγalï BU""YN böz-tä ulatï-lar-ïγ angayu tiläp čoγ-lar (3) yruq-lar-nïng basut-lamaq-ïn timin ök uyur ärmäz yarudγalï 非燈欲照瓶衣等時別求光明助方能照

203 (4) 若謂眼中 birök söz-läsär-siz-lär köz-tä yruq (5) yašuq azumïš üčün tiläp uluγ yruq yaldrïq-nïng basut (6) -lamaq-ïn timin ök körür tip 若謂眼中火明小故求大光明助方見者

---

197 「眼根も亦た爾なり」

198 「遠近二境（へ）俱に至り而して取る，彼の明燈は2)と同じ4)火明性3)故，対立しあわずと5)，(なんじらの）因は成ぜず7)」 adqanγu-larïγ の ïγ（対格）は -qa（与格）の誤りであろう．qaršï bolušmaz「対立しあわず」は漢文にはない．

199 「眼の火の明性となるは極成するに非ざるが故に」

200 「又，眼へ1)応からず3)是において火明が性となる2)」

201 「闇に欲するなら1)求むる故に3)光明を2)」 qarangγu は qara'ngγu とかかれている．küsäsär のあとに körmäk「見」が脱落している．

202 「燈が1)欲したる時4)照らすことを3)瓶衣等を)2別に5)求めて7)光明などの助を6)方に8)能くせず10)照らすことを9)」 BU""Y'は「瓶」をあらわす．

203 「若し1)（なんじら）謂えば6)眼における火明が小なるが故に2)求めて4)大光明の助を3)方に見ると5)」 yruq yašuq「火明」は oot yruq の誤りか．

204	bu ymä ök törü-süz ärür (7) körülür üčün kičig yruq-nung uluγ-ï üz-ä yavalγu-luq (8) bolmïš-ï 又 basïdïlγu-luq bolmïš-ï ymä/tir	此亦非理　現見小明大所伏故
205	köz birdämlig umaγu (9) kärgäk öng körgäli	眼応畢竟不能見色
206	yana yruq yula yöläšürüküngüz-lär köz birlä (10) birikmäz	又明燈喩　与眼不同
207	yaqïn sïq-a odγuraq yarudmïš-ï körülmäz üčün	隣逼無間照不見故
208	qaltï (11) yruq yula yana tingsim-tä-ki oot-ta ulatï arduqraq yaqïn (12) sïq-a adqanγu-lar-qa	謂如明燈　於油炷等極隣（逼物能焼能照眼則不然　於眼薬等極隣）逼境
209	umaz üčün körgäli 又如明燈 yana (13) qaltï yruq yula alqu ïraq-taqï yaqïn-taqï yarudγuluq (14) äd-lär-kä oq-suz tüzü yarudmïš-ï täg köz ödrü andaγ (15) ärmäz	不能見故　又如明燈於諸遠近所照之物　無間遍照眼則不爾
210	76A azu-ča ymä ärdip ikin araqï sögüd arïγ-ta (1) ulatï öng-lär-tä körür üčün taγ-ta ulatï-lar-ïγ	或越中間樹林等色見山等故
211	munta (2) uγur-ïn-ta yula yöläšürüküngüz-lär köz birlä birikmäz	由茲燈喩　與眼不同

204 「此れも亦た理に非ず1)，現見する故に3)小明の大において伏すこと2)」　körülür の前に yügärü がぬけているのか．cf. 249 252.

205 「眼は畢竟じて1)能わざる応し3)色を見ること2)」

206 「又，(なんじらの) 明燈の喩は眼と同じからず」　yöläš「依る」-ür(causative) -ük (noun) ＝喩

207 「隣逼し極めて照らしたるを見られざるが故に」　odγuraq「極めて」は odγura'q とかかれている．漢文ではこの位置に「無間」がはいっている．「無間」は209では oq-suz があてられている．

208 「謂わく，明燈はまた……」yana 以下は分からない．

209 「能わざるが故に2)見ること1)又明燈が諸の遠近にある所照の物へ無間に遍く照らしたるが如く眼は則ち爾らず3)」

210 「或はまた1)越えて3)中間の樹林等の色を2)見るが故に5)山等を4)」

211 「ここに由りて（なんじらの）燈の喩は眼と同じからず」
yölašürüküngüz は YUL'SU- RU'KUKUZ るかかれている．

212 前所 (3) 立因 öngdünki uqïdγu-čï tïldaγïngïz-lar ïraq-taqï (4) yaqïn-taqï iki adqanγu-lar-qa bir öd-tä alïr üčün

前所立因　遠近二境俱時取故

213 (5) tigüči tanuq ärür köz-nüng yintäm alïr-ïnga tägmiš-täki ärmäz (6) adqanγu-lar-ïγ tisär yörüg-i-ning bolmaz ämidmäk-i (7) täpinmäki

証眼唯取非至境者　理無傾動

214 yana köz-kä tägimlig ärmäz adqanγu-qa tägip timim (8) alγalï (nädägin tip tisär) umaz üčün alγalï yaqïn sïq-a (9) adqanγu-lar-ïγ

又眼不応至境方取　以不能取隣逼境故

215 yana ymä ök uyur üčün alγalï siparïr (10) -ta ulatï-lar üz-ä tïdïlγu-luq bolmïš öng-lär-ig

又亦能取頗胝迦等所障色故

216 又於 (11) 所見 yana körgülük-tä bolur üčün ikirčgülänmäk

又於所見有猶予故

217 birök (12) alsar tägmiš-täki adqanγuγ qayu tïldaγ-ïn ikirčgülänür

若取至境　因何猶予

218 tägmiš (13) ärmäz orun-ta ikirčgülämäk tuγγu kärgäk yörüg töz-in-täki (14) -čä ärsär

非於至処猶予応理

---

212 「前の所立の因は遠近二境(を)倶時に取るが故に」　adqanγu-lar-qa の -qa(dative) は -ïγ (accusatve) の誤り.

213 「証となる4)眼の唯だ1)取ることへ3)非至の境を2)といわば（その）理の5)無し7)傾動は6)」 ämidmäk は "MYDM'Kとかかれている. tägmiš-täki 「至ったもの」+ärmäz 「非ざる」+adqanγu-lar 「境など」=「非至境」.

214 「又眼へ1)応らず3)境へ至り方に取る2)（なぜというなら）4)能わざるが故に7)取ること6)隣逼して境などを5)」　国訳：「又，眼は，不応至の境を方に取る。……」. nädägin tip tisär にあたる漢文はない.

215 「又，亦1)，能くするが故に4)取ること3)頗胝迦等における所障となりたる色を2)」 siparïr=skt. sphaṭikā 「頗胝迦」にあたる.

216 「又，所見において1)有るが故に3)猶予2)」 ikirčgü 「疑い」-län (denom. verb)-mäk (dev. noun)=「猶予」.

217 「若し1)取るならば3)至境を2)何に因りて猶予するや4)」

218 「至らざりし処において猶予が生ずる応き理性としては」　国訳：「至の処に於ては，猶予は理に応ずるに非ず。」.

219	76B čïnγaru bolmaz üčün kiši-ning toqmaq sögüd (15) -nüng adïr-tïn söz-läyü tükädmiš üz-ä tägir anda (1) tip čïnγaru bilip tägšilip turur bälgü-sin čïnγarmaγu(2) -luq adïr-tïn	又不審知人杭異故 既言至彼審知堅相不審 差別
220	munta bar qayu tïldaγ-ï	此有何因
221	yana köz-nüng (3)bolmaz üčün uγur-ï yïq-ï täggülük ïraq-taqï adqanγu (4) -lar-qa	又眼無容至遠境故
222	bolmaz uγur-ï yïq-ï munda turup köz ärdip üküš (5) ming yočan ülgü-ta 至月輪境 täggülük ay tängri (6) tirgän-lig adqanγu-qa	無容住此眼越多千踰繕那量 至月輪境
223	köz-tä bar üčün yruq bulduqmaz bu mün (7) qadaγ tisär yörügi ymä ök andaγ armäz	眼有明故 無斯過者 理亦不然
224	köz-tä oot yruq-ï (8) -nïng bar-ï arduqraq büdmiš ärmäz üčün	眼有火明 非極成故
225	köz-nüng töz-i oot (9) ärmäz näčükin bolγay oot yruq-ï	眼性非火 寧有火明
226	76B 釈曰耳根亦唯 qulγaq ärklig ymä ök (12) yintäm alïp tägmiš ärmäz adqanγu-lar-ïγ	耳根亦唯取非至境

---

219 「審知せざるが故に2)人の杭の異なりを1)言い既えたうえ6)至る4)彼こに3)と5)審知して8)堅相を7)審すべからず10)差別を9)」 bolmaz は bilmäz の誤りであろう. toqmaq「棒」+sögüd「木」=「杭」.

220 「此こに1)有るや3)何の因が2)」

221 「又眼の1)無きが故に5)容きこと4)至る3)遠境へ2)」 ïraqはïra'q とかかれている.

222 「無し7)容きことは6)此こに住みて眼が1)越え3)多千踰繕那量を2)至る5)月輪の境へ4)」 adqanγu は a'dqanγu とかかれている。 yočan=skt. yojana「踰繕那」.

223 「眼に1)有る故に3)明が2)無し5)斯の過4)とは（その）理亦然らず6)」

224 「眼に火明の有るは極成に非ざるが故に」

225 「眼の性は火に非ず寧んぞ1)有らん3)火明2)」

226 「耳根も亦，唯1)，取りて3)非至境を2)」

227 ïraq yaqïn bulung (13) yïngaq tayaq bolur üčün bilmäk uqmaq-ï　方維遠近可了知故

228 77A qaltï bolur bilmäk (14) uqmaq-ï bu kün-täki taγ-taqï ol tip ulatï ïraq (15) yaqïn bulung yïngaq-taqï adïrt öngi ünüg (1) yangquγ　謂可了知此南北等方維遠近差別音声

229 ün tägdük-tä qulγaq ärklig-ig timin ök (2) bolur äšidgäli　声至耳根方得聞者

230 qaltï tadïγ-ta ulatï-lar täg bu sav-lar barča (3) bolmaγu kärgäk　応如味等　此事皆無

231 豈 näčükin bolγay burun ärklig-ning ymä ök (4) körmädin umaγay bilgäli ïraq yaqïn bulung yïngaq-taqï yït-nïng (5) adïrdïn　豈不鼻根亦見能了方維遠近香差別耶

232 näčä körsär ymä täk bulung yïngaq iyin ävlirip (6) tägzinip alïp yït-ïγ bäkiz bälgülüg bilmäk uγur-ïn-ta (7) tängläp bilir adïrt-ïn　雖見但由順方廻転　取香明了比知差別

233 köz qulγaq kördük-tä äšid(d)ük-tä (8) ïraq yaqïn bulung yïngaq-taq-ïn　眼耳見聞方維遠近

234 tayanmadïn ävrilmäk tägzin (9) -mäk-kä inčip uyur bäkiz bälgülük bilgäli　不仮廻転而能了知

---

227 「遠近方維を1)可なるが故に3)了知すること2)」 tayaq は「維」を表すのか. cf. 228 231.

228 「可なり 3)了知すること 2)此の 南北 にあるというもの 等の 遠近方 (維) にある 差別の 音声を 1)」

229 「声が1)至りしとき3)耳根 (へ) 2)方に4)得6)聞くことを5)」 ärklig-ig は är'klig-ig とかかれている. また -ig (accusative)は -kä (dative) の誤りか？

230 「味等の如く此の事は皆無なる応し」

231 「いかにならん, 鼻根の亦1)見ず3)能わじ5)了ずること4)遠近方 (維) にある香の差別を2)」 näčükin は nä'čükin とかかれている.

232 「見ると雖も, 但だ方に順じて廻転し1)取り3)香を2)明了することに由りて4)比知す6)差別を5」 ävlirip は ävrilip の音位転換形.

233 「眼耳の1)見しとき聞きしとき3)遠近方 (維) を2)」

234 「仮らずして2)廻転へ1)而も3)能くす5)了知することを4)」

235	anïn qulγaq ärklig (10) -ning adqanγu almaq-ï oxšadï ärmäz	故与鼻根取境非類
236	yana ïraq yaqïn (11) ünüg alduq-ta bolur üčün bäkiz bälgü-lük bilmäki bäkiz (12) bälgülük bilmämäki	又近遠声　取有明了不明了故
237	若至乃聞 birök tägdük-tä anï (13) -layu oq äšidsär barča-nï bäkiz bälgülük biligü (14) kärgäk	若至之聞並応明了
238	yana ïraq yaqïn ünüg alduq-ta bolur üčün (15) odγuraq bilmäk ikirčgülämäk üz-äki adïrtï	又近遠声　取有決了猶予別故
239	77B birök täg (1) -tükdä anïlayu oq äšdsär tägmäk adïrt-sïz üčün	若至乃聞至無別故
240	(2) qaltï yaqïn-ta odγuraq bilmiš täg alqu ïraq-taqï yaq (3) -ïn-taqï ün-lär-tä bolmaγu kärgäk ikirčgülänmäk	如近決了　於諸遠声応無猶予
241	qaltï ïraq (4) -ta ikirčgülämiš täg alqu yaqïn-taqï ün-tä bolmaγu (5) kärgäk odγuraq bilmäk	如遠猶予　於諸近声応無決了
242	munda-ta ulatï tanuq-lar uγur-ïn-ta (6) tägmäz-känki uyur äšdgäli tip	由此等証　不至能聞

235 「故に耳根の境を取ることは類に非ず」　漢文の「鼻」にたいして「耳」がはいっている.
236 「又遠近の声を取るに1)有るが故に3)明了と不明了が2)」
237 「若し至りしとき乃ち1)聞くならば3)すべてを2)明了す応し4)」　国訳：「若し至なれば，乃ち聞くに並に，応に明了なるべし」
238 「又，遠近の声を取りしとき1)，有るが故に3)決了と猶予における別2)」
239 「若し至りしとき乃ち1)聞くならば3)至を2)無別故に4)」
240 「近において決了したるが如く諸の遠にある近にある声において1)無かる応し3)猶予すること2)」yaqïn-taqï は余分.
241 「遠において猶予したるが如く諸の近にある声においては1)無かる応し3)決了すること2)」
242 「此れ等の証に由りて不至を1)能す3)聞くことを2)と4)」　-känki については193を参照.

243	79B qulγaq uyur (1) alγalï tägmiš-täki adqanγuγ	370C(12) 耳能取於至境
244	ün ulalu ävrilip kälip kirür (2) üčün qulγaq-qa yana kändü öz-i uyur üčün äšdgäli qulγaq (3) -ïn-daqï ünüg tip	声相続転来入耳故 又自能聞耳中声故
245	bu söz-lämiš-ingiz-lär törü-süz ärür	此説非理
246	79B qaltï čung qongraγu-ta (5) ulatï-lar-ïγ qongradmaq-ïn-tïn tuγup öz ilig üz-ä nä (6) böridtük-tä qongraγuγ öz-i käz-tä amrïlmïš täg üčün	手纔執鈴声頓息故
247	birök (7) ün ulalu kälip kirdük-tä qulγaq ičingä (timin ök bolsar äšidgäli) (8) ilig üz-ä tudmïš öd-tä qongraγuγ qongraγu-qa tayaq- lïγ-ïn (9) ün su bolz-un amrïlmaqï	若声相続来入耳中 手執鈴時依鈴声可息
248	andïrt-ïn tuγ-a tükädmiš töz körk-tin (10) adïrïlmïš-ï ärsär ulalïp amrïlmadïn bu äšdilgü kärgäk	従彼伝生 中間離質相続不息 此声応可聞
249	然執 (11) 鈴時 inčip tudmïš öd-tä qongraγuγ yügärü körür alqu (12) qongraγu ün-i-ning käz-tä amrïlïp arïdï äšdgäli bolmaz-ï	然執鈴時 現見一切鈴声頓息 都不可聞

243 「耳は1)能くす4)取ることを3)至境を2)」

244 「声は相続して転じて1)来入する故に3)耳に2)又，自らが4)能くするが故に7)聞くことを6)耳にある声を5)と8)」

245 「此の(なんじらの)説は非理なり」「疏主比説非理 isdiramatï baγsï söz- (4) lär」が先行する。

246 「大きい鈴などを鳴らすことにより1)起こりて3) (声が) 2)手においてなにか4)触れしとき6)鈴に5) (その声は) 頓に息みしがごとき故7)」 öz はいずれも ün の誤りであろう．国訳：「手，纔に鈴を執れば，声頓に息むが故に」．čung く chin. 鐘

247 「若し声が相続して1)来入したならば3)耳の中へ2)(すなわち 4)，あたうならば 6)聞くこと5)手において7)執りし時9)鈴を8)鈴へ依りて声は10)可たるべし12)息むこと11)」 su＝？

248 「彼より生まれおえし，質を離れしものは相続して息まず此を聞く応し」 漢文の内容とはかなり異なる．andïrt は 'NDYRT とかかれている．

249 「然るに1)執りし時3)鈴を2)現見す5)一切の鈴の声の頓に息みて都て聞く可からざること4)」 国訳：「……一切の鈴の声の頓に息むをを現見ん。都て聞くべからず。」．

250 80A 若 (1) 謂 birök söz-läsär siz-lär qaltï yula öčmiš öd-tä yaqïn (2) ïraq-ïn-taqï barča üčmiš-täg tip bu ymä ök anda$_{\gamma}$ ärmäz

若謂如燈滅時近遠明皆滅者 此亦不然

251 birgärü (3) birgärü ärmäz öd-tä ävrilmäk üz-ä adïrïlmïš üčün

俱不俱時転差別故

252 bir ärmäz-li (4) bir-li ök ular üčün

非一与一相続異故

253 qaltï yula-lï yruq-ïn-lï yügärü körülür (5) birgärü ävrilmiš-i yula yalïn-ï yana öč(ä) birlä ök ödrü (6) körülmäz yaruq-ï

謂燈与明現見俱転 燈焔纔滅則不見明

254 ün ödrü anda$_{\gamma}$ ärmäz

声即不然

255 siz-lär taplamïš üčün (7) töz körk-tin adïrïlmïš-ï ödlüm ödlüm ulalu kälip kirür üčün (8) qul$_{\gamma}$aq tip

彼許離質展転相続来入耳故

256 彼応定許 siz-lär-kä od$_{\gamma}$uraq tägimlig ol tap (9) -la$_{\gamma}$alï äšidmiš ödtä tägmiš-täki ünüg ang bašlayu töz körk (10) -kä yaqïn-qï ün ärdä ök ärdä öčä tükädmiš bolur tip

彼定応許聞至声時初附質声久已謝滅

257 (11) birök anda$_{\gamma}$ ärmäsär ang bašlayu turmïš ün-üg äšidilmiš tuš (12) -taqï-sï anï-layu oq turmaq üz-ä yidlinür kšan-ik töz-i

若不爾者 初所起声聞位猶存 失刹那性

250 「若し（なんじら）謂わば2)燈の滅したる時近遠にあるもの皆な滅したるが如しと1)，此も亦た然らず3)」 漢文「明」にあたるウイグル語が抜けている．

251 「俱，不俱の時に転において差別したるが故に」

252 「非一と一と相続するが故に」 漢文の「異」にあたるウイグル語はない．

253 「燈と（その）明とで1)現見す3)俱転が2)燈焔のまた（纔に）滅するとともに則ち4)見えず6)明5)」 国訳：「謂はく，燈と明とは，俱に転ずるを現見す。燈焔纔に滅ずれば，則ち明を見ず。」．öč「滅す」-ä(gerund) birlä「とともに」．

254 「声は即ち然らず」

255 「なんじらは1)許せし故に6)質を離れしこと展転と相続し2)来入するが故に4)耳（へ）3)と5)」

256 「なんじらへ定んで1)応し6)評す5)聞きし時3)至にある声を2)初めて質に附したる声は久しく滅し已えたことたると4)」

257 「若し爾らざれば初めの所起の声を聞きし位が猶お存するうえにて1)失す3)刹那性は2)」 kšan-ik＝skt. kṣaṇika「刹那」．

258 (13) anïn ün yula yaruq-ï birlä birikmäz　故声与彼燈明不同

259 又 yana yula-lï yal (14) -dïrïq-ïn-lï-nïng ulaq-ï öngin öngin öngi ärür　又燈与明　相続各異

260 80B qaltï köngül (15) köngül-täki nom-lar bir täg bar qamaγ-lïγ tïldaγ tip tuγup (1) 縁 tïldaγ-ï tägmiš öd-tä qurulmaq-qa anï-lï munï-li bir (2) amrïlmïš täg　如心心所同共縁生　縁被損時彼此俱息

261 ün ödrü andaγ ärmäz ulaq-ï adïrt-sïz (3) ärür　声即不爾　相続無異

262 qaltï bilig-ning ulaq-ï täg qamaγ-lïγ-sïz tïldaγ-tïn (4) tuγar　如識相続不共縁生

263 ün öng ulaq-ïn-ta 前声雖滅 öngdünki (5) öng näčä öčär ymä kinki ün anïlayu oq tursar　声相続中　前声雖滅後声猶起

264 nä üčün (6) äšidmiš anï üčün töz körk-kä tayaq-lïγ-ïn qayu turmïš ün (7) yangqu ödrü uyur tïldaγ bolγalï tuγurγalï qulγaq bilig-in　何故不聞　是故依質所発音声　即能為縁生於耳識

265 (8) birök munda öngi ol tip tisär ün tägdük-tä timin äšidmäk (9) üz-ä yaqïn-taqï ïraq-taqï ünüg bilmäk adïrt-sïz bolγu kärgäk　若異此者　声至方聞了近遠声　応無差別

---

258 「故に声と燈明とは同じからず」

259 「又燈と(その)明との相続は各異なる」　yaldïrïq は yaltrïq/yaldrïq とかかれるのがふつう.

260 「心心所が同じく共縁として生じ，その縁が1)被りし時3)損を2)彼と此とは倶に息む如し4)」　2番目の bir は birlä の誤りであろう. bar qamaγ-lïγ で「共」を表すのか. cf. 262.

261 「声は即ち爾らず相続は無異なり」

262 「識の相続の如く不共縁から生ず」

263 「声は色の相続中，前の色が滅すと雖も後の声は猶お起これば」　ün öng は ün-nüng「声の」の öng näčä öčär ymäはün näčä öčsär ymä「声が滅すと雖も」の誤りであろう.

264 「何故聞けるや，是の故に質に依りて所発の音声は即ち1)能くす5)縁と為ることを2)生ずることを4)耳識を3)」　äšidmiš は äšidmäz の誤りであろう.

265 「若し此れと異なるというならば声が至りしときに方に聞くことにおいて近遠の声を了すること無差別となる応し」

266 (10) inčip käntü öz-ï umaq-ï üz-ä äšidgäli qulγaq-taqï ünüg näng (11) yït-ta ulatï-lar burun-ta ulatï ärklig-lär-kä yaqïn bolmïš (12) täg ärmäz

然自能聞耳中声者 非如香等隣鼻等根

267 雖在耳中 näčä tursar ymä qulγaq-ta anïlayu oq (13) tägmiš-täki adqanγu ärmäz

雖在耳中 仍非至境

268 85B 今説大徳 amdï söz-lägüči (11) ayaq-qa tägimlig darm-a diradï baxšï-nïng mundaγ ošuγ-luq (12) abïpïrayï yol-ïn ödrü sävgülük ärmäz ymä ök alγuluq ärmäz

373B(16) 今説大徳如是意趣 非即可楽亦非可悪

269 (13) täk tägimlig ärmäz ol isdägäli tübgärgäli nädägin ooq-suz (14) ärip anïlayu oq bir ikinti-kä bürüdüšmäz

但応尋究 如何無間仍不相触

270 yörüg-i uγul (15) -maduq üčün abïpïrayï yol-ïn alp bolur bilgäli

理未顕故 意趣難知

271 86A birök söz (1) -läsär alqu barmγu-lar-nïng büdün yoq ärip ooq-ï yïq-ï inčip (2) bir ikinti-kä qadïlïšmaz tip

若説諸徴全無間隙 然不相雑

---

266 「然るに自ら1)能くすることにおいて4)聞くことを3)耳中の声を2)香等，鼻等の根に隣したるが如きに非ず5)」

267 「在りと雖も2)耳中に1)仍お至境に非ず3)」 adqanγu は"D""U とかかれている．

268 「今1)．説くものは3)大徳救法の是くの如き意趣を2)即ち可楽に非ず亦，可悪（？）に非ず4)」 国訳：「今，説く。大徳の是の如きの意趣は、即ち，楽しむべきにも非ず，亦，悪むべきにも非ず。」．darm-a diradï＝skt. dharmatrāta. cf. bhadanta-dharmatrāta＝「大徳救法」「大徳達磨多羅」．

269 「但だ1)応からず3)尋究する2)如何に無間なれども仍お相い触れざる」 bürüdüš-＜bürtüš-

270 「（その）理は（顕れざるが）故に意趣を1)難し3)知ること2)」 uγulmaduq＝？ abïpïrayï＜skt. abhiprāya

271 「若し1)説くならば6)諸の徴の全く2)無く4)間隙3)然も相い雑せずと5)」 barmγu＝「徴」

漢語—ウイグル語対照語彙

(ḍはt音を，tはd音を表す)

1画

一 bir 3 8 43 85 93 94 192 194 252; ang'ilki 76 84 116; 一切 alqu 15 31 88 107 138 189 249 alqu barča 21 144.

2画

乃 anïlayu oq 237 239.

二 iki 75 83 107 192 196 198 212; ikinti 76 84 136 178.

人 kiši 219.

入 kir- 244 247 255.

力 küč 150.

又 yana 9 15 18 24 43 60 66 68 73 118 149 176 179 200 206 209 214 215 219 221 236 238 244 259.

了 bil- 158 159 231 232 236 237 238 240 241 265; bilil- 111; 了知 bil- uq- 78 227 228.

3画

三 üč 117; üčünč 136; üčägü 116.

上 上首 baš bašlaγ 33; 上昇 yuqaru aγdïn- 125; 以上 -ta yuqaru 178.

与 birlä 162 163 177 206 211 258; -lï/-li...lï/li 252 253 259; -qa/kä 9 10 39.

及 ulatï 3 51 54 85 90 91 94 95.

久 ärḍä ök ärḍä 256.

千 ming 222.

大 uluγ 63 82 203 204; 大種 maxa but; 154; 大徳求法 ayaq-qa tägimlig darm-a diradï baxšï 268.

小 kičig 203; azu- 204.

山 taγ 210.

已 -u (gerund) tükäḍ- 94 102 105 106 111 256.

4画

中 ič 247; 中間 ikin araqï 210; 助詞の中はふつう -ta/tä -taqï/täki で表される.

云 云何 näḍägin 22 101 qayu ol tip tisär 75.

五 biš 25 71 72 114 121 135 139 148 149; bišinč 136.

今 amtï 2 268.

仍 anïlayu oq 267 269.

六 altïnč 68 69 70.

分 ülüš: 夜分 tün ülüš-i 119 122 昼分 kün-düz ülüš-i 125 128; 少分 15 18 20 123 少をみよ.

切 一切: alqu 15 21 31 88 107 138 189 249 alqu barča 144.

予 猶予 216 217 218 238 240 241 猶をみよ.

天 天授 divataḍ 191.

少 az 61; 少分 yarïm-ča 15 18 20 123.
引 tarḍïl-: 引発 tarḍïlïp tuγ- 148.
心 köngül 3 4 10 13 15 17 18 19 20 27 30 31 34 36 38 39 44 46 49 51 53 54 56 62 132; 心所 köngül-täki nom 5 6 11 24 32 35 42 43 45 58 59 60 64 260.
方 timin ök 67 74 202 203 229; timin 214 266; bulung yïngaq 192 196 232: 方維 227 228 231 233.
日 kün tngri 128: 日輪 kün tngri tilgän 125.
月 ay 119; ay tängri 222.
木 ïγač 169.
火 oot ot oḍ 151 169: 火明 oot yruq 224 225 ot yruq 198 200 ot-nung yruq 199.
牛 ud 169.

5画
且 munḍa 2.
世 世間 yirtinčü 111 115 124 176 184.
令 kim + (Caus. suf.) 154.
処 orun 69 218.
功 功能 ädräm 188.
北 taγ 228.
弁 uqïḍ- 114.
可 bol- 23 178 227 228 247 249; -γuluq/-gülük 268.
四 törtünč 136.
外 taš-tïn sïngar-qï 5 41; tašγaru 72.
失 mün qadaq 42; yidlin- 257.
平 平坦 tüz tašang 125 128.
必 odγuraq 87; 必定 adïrt-lïγ odγuraq 50.
正 köni: 正見 köni körüm 115 116 124 127 130 133; 正理 köni yörüg 173.
永 birḍämläti 81
生 tur- 3; tuγ- 43 71 85 90 96 105 118 141 144 149 150 151 153 154 178 248 260 262; tuγur- 131 158 264; 異生 65 117, 異をみよ. 非六生 68, 六をみよ.
用 iš 112 150 151 152 153.
由 uγur-ïn(ta) 16 62 154 167 177 211 232 242.
立 uqïḍ- 13 83 212; uqïdïl- 14.

6画
亦 ymä 32 35 37 53 55 68 73 121 124 127 130 142 147 175 181 184 197 204 215 223 226 231 250 268.
仮 yïlayu: 仮我心 yïlayu män köngül 6 13; yïlayu-sïnča 17; tayan- 234.
伏 yaval- 36 204; yavalḍur- 35; basïḍïl- 204. 調をみよ.
光 čoγ 128; 光明 čoγ yruq 202 yruq yašuq 201; 大光明 uluγ yruγ yaldrïq 203.
全 büḍün 271.
共 yomγï 111; qamaγ-lïγ: 不共

qamaγ-lïγ-sïz 39 141 共縁
qamaγ-lïγ tïldaγ 260 不共縁
qamaγ-lïγ-sïz tïldaγ 262.
各 öngin öngin 93 259.
同 bir täg 198 260; bir täg bol- 170; birik- 206 211 258; 同異類心 bir uγuš-luγ öngi uγuš-luγ köngül-lär 46; 同類心 oxšaḍï köngül 60.
名 aḍ/at 32 59 62 63 167 169; aḍï/atï bol- 4 8 11 15 31 40 41 44 57 67 74 81 94 98 104 113 164 176 184 188 190; aḍa- 70 85 87 178 181.
因 tïldaγ 160 195 198 212 217 220 因縁 tïldaγ 23 avant tïldaγ 158 159.
在 tur- 62 267; 自在 ärkčä tapča 28 29.
地 orun 99 117.
多 üküš 61 222.
如 qaltï.. täg 65 74 111 151 194 230 240 241 250 260 262 täg 151 209 266 qaltï 35 77 79 169 208; 譬如 inčä qaltï.. -ta/tä/ täg 119 122 125 128 196; 如是 munḍaγ 16 159 268 munï munčulayu 92 anḍaγ 62 anḍaγ oq ärür 53 如是如是 anča anča oq 132; 如実 čin-inčä kirtüsinčä 78; 如何 näḍägin 269.
存 tur- 257.
尽 alqïnču 144; alq-: 断尽 tarγar-alq- 103.
当 kin 114; inčip 157.
成 bol- 19 21 42 168 174 175 180; büd- 186 195 198 199 224; 成就 tükäl-lig bol- 87 105 177 183.
有 bar 12 25 91 106 122 146 158 163 220 223 224; bol- 10 59 75 133 135 157 178 191 216 225 236 238; -lïγ/-lig/-luγ/-lüg 21 88 89 95 96 115 127 134 136 143 145 149 184; 有表 uqïḍur 148; 有情 tïnlγ-lar 185.
次 käzig: 次第 käzig tizig 83 iyin käzig-čä 100; 漸次 ančan ančan käzigčä 92 118.
此 bu 1 22 39 153 195 204 228 230 245 248 250; munḍa/munta 12 70 88 106 111 174 220 222 242 265; munung 16 41 62; munï 173 260.
汚 染汚 19 51 53 54 55 89 95 114 121 136 139 140 142, 染をみよ.
汝 siz-lär 80.
而 inčip 36 44 70 119 122 125 128 164 170 180 183 196 198 234.
耳 qulγaq 138 162 163 226 229 233 243 244 247 255 264 266 267.
自 öz 30 84 85 107 132 244 266; 自在 ärkčä 28 29.
至 täg- 186 187 188 189 190 192 193 194 196 198 213 214 218 219 221 222 226 237 239 242 243 256 265 267.
色 öng 72 73 88 89 95 96 101 108

109 112 120 123 126 129 152 153 155 174 175 185 205 210 215.
行 yorï- 28 29 30 33 34: 行動 yorïmaq täpinmäk 191; 行者 yogačarï 131.
衣 böz 202

7画
来 käl- 244 247 255.
何 qayu 3 12 27 75 106 163 217 220; näḍägin 24: 云何 22 101 如何 269; 何故 nä üčün 264.
位 tuš 184; tuš-taqï 257.
作 qïl- 157.
住 tur- 222; turmaq-lïγ: —住 bir turmaq-lïγ 3 —生住 bir tuγmaq-lïγ turmaq-lïγ 43; tuḍmaq-lïγ: 住持 särgürüp tuḍmaq-lïγ 150.
体 töz 93: 自体 öz töz 107 見体 körüm töz-lüg 160 164 168. 体相 töz bälgü 190.
似 oxšatï 39.
伺 yinčgä saqïnč 20 21, 尋をみよ.
但 täk 36 167 176 177 232 269.
初 ang bašlayu 256 257.
別 adïrt 100 171 238 239; adïrtla- 158 159; adïrïl- 117; angaru 117; angayu; 202; 差別 23 106 132 162 163 165 167 168 219 228 231 232 265, 差をみよ.
利 yti sikiz 109 112
助 basut-lamaq 202 203.
即 öḍrü 254 261 264 268; ol oq 72 159.
声 ün 228 229 236 238 240 241 244 247 249 256 257 258 263 264 265 266.
対 körü 7; 対治 yöründäk 85.
応 tägimlig: tägimlig ol.. -γalï/-gäli 2 256 不応 tägimlig ärmäz···-γalï/-gäli 16 156 164 166 168 181 200 214 269; -γu/-gü kärgäk 8 19 21 63 153 175 180 184 205 218 230 237 240 241 248 265; 相応 yaradïl- 115 145 147.
我 män 27 29 31 32 37 78 仮我心 yïlayu män köngül 6 13 我執 män adqaγ 15 17 24.
改 改易 tägšil- 168 169.
杭 toqmaq sögüḍ 219.
求 tilä- 201 202 203.
決 odγuraq: 決了 odγuraq bil- 238 240 241.
究 究竟: birḍäm-lig 67 birḍämläti 74; 尋究 isḍä- tübgär- 269.
見 kör- 66 68 72 73 91 100 102 120 123 126 129 155 156 172 176 181 182 203 205 209 210 216 231 232 233 249; körül- 204 207 253; körüm 25 107 108 110 113 114 115 116 117 121 124 127 130 133 135 138 139 140 142 143 144 145 146 147 149 152 153 160 164 168 174 175.

言 sözlä- 14 164 172 182 219; yrlïqa- 77 79: sav 116 157; tip ti- 162.
身 ät'öz 25; 五識身 biš bilig-lär quvraγ-ï 148.
近 yaqïn 192 194 196 198 209 212 227 228 231 233 236 238 240 241 250 265; 親近 yaqïn yaγuq 8.
那 踰繕那 yočan 222; 刹那 kšan 257.

8画
事 sav 230; vastu 86.
依 tayan- 6: 能依 7 14 50 59 61 156 所依根 tayanγuluq ärk-lig 165; tayaq 9 10 13 15 18: 所依 48 52 56 62 167 168 依止 17; tayaq-lïγ 169 172; tayaq-lïγ-ïn 34 83 151 173 247 264.
其 anïng 114 187.
刹 刹那 kšan 257.
到 tägmäk 188.
取 al- 189 193 198 212 213 214 215 226 232 235 236 238 243; tud- 25.
受 tägin- 63.
味 taḍïγ 230
命 命終 öl- 148.
坦 平坦 125 128, 平をみよ.
夜 tün: 夜分 tün ülüš-i 119 122.
実 如実 čin-in-čä kirtü-sinčä 78.
定 odγuraq 26 50 66 187 256
幷 birlä yana 96.
彼 ol 7 22 26 34 83 90 94 95 99 101 103 159 194 198; anïng 40 85; anï 67 74 86; anda 178 219; siz-lär 14 24 255 256.
性 töz 7 24 48 50 52 55 56 59 61 84 170 171 225 257; töz-lüg 10 168 194 198 199 200.
学 bošγut 117 127 130 136 143 144.
或 azu 12 61; azu-ča 20 105 210.
所 所依 7 9 10 13 48 52 56 62 165 167 168, 依をみよ; 所言 qayu söz-lä- 14; 所縁断 adqaγ-ïn tarγarmaq 84 adqaγ-ïn tarγarmïš 87; 所縁事 adqanγu-lug vastu 86; 所縁境 adqanγu-luγ adqanγu 133; 所見 körgülük 120 123 126 129 216; 所立 oqïdγu-čï 212; 所起 turmïš 257; 所発 qayu turmïš 264; 所繋 qošulγuluq 91; 見所断 körmäk-tä tarγarγuluq 72; 心所 3 5 6 11 24 32 35 42 43 45 59 58 60 64 260, 心をみよ.
拘 拘礙 tïdïl- tuḍul- 185 186.
易 改易 168 169, 改をみよ.
昇 aγḍïn- 125.
明 yaruq 119 122 196 198 199 200 204 206 208 209 223 224 225 253: yaruq yašuq 109 112; 明浄 yruq arïγ bol- 123 129 133 közün 126; 明了 bäkiz bälgülüg bil- 232 bil-236

237；明燈 yula yaruq-ï 196 198 yruq yula 206 209；光明 yruq yašuq 201 čoγ yruq 202 yruq yalḍrïq 203 259；火明 yruq yašuq 203；燈明 yula yruq-ï 258.
朋 朋類 arq-a uγuš 64.
果 tüš 3 94.
林 arïγ：樹林 sögüḍ arïγ 210.
治 uzaq bol- 85.
法 nom 39 41 49 63 66 73 74 85 90 96 99 101 102 105 107 108 109 121 124 127 130 142 168；törü 65 152 191.
物 äd 209.
盲 täglük 176 177 178 179 180 183 184.
知 bil- 270；審知 čïnγaru bil- 219；比知 tängläp bil-232；了知 bil- uq-78 227 228 bäkiz bälgülük bil- 234.
若 birök 27 54 152 174 182 188 190 194 217 237 247 257 271；qayu 39 85 105；anḍaγ yana 73；kim-lär 80；ap ymä 88 89；謂若 51 196 若謂 165 203 250, 謂をみよ.
表 有表 uqïḍur 148.
長 長益 ükli- 154.
門 uγur：外門 tašγaru uγur-ï 72 内門 ičgärü uγur-ï 110.
阿 阿毘達磨 abïdarmïkï 82.
附 yaqïn：附質声 töz körk-kä yaqïn-qï ün 256.
阻 險阻 119 122, 險をみよ.
非 ärmäz 9 38 45 62 66 68 70 72 73 100 110 120 133 138 140 142 146 147 149 160 172 176 178 186 191 199 202 213 224 225 235 252 266 267 268；-siz/süz 186 204 245；-ma-/-mä- 32 193.

9画

便 öḍrü 86.
前 öngdün 111 212 263；現前 yüüz yügärü qïl- 178, yüüz yügärü bol- 182
則 öḍrü 62 81 184 189 209 253.
南 kün 228.
品 bölük 93；隨眠品 114 隨をみよ.
垢 kkir 134.
契 契経 sudur 77 79.
度 推度 109, 推をみよ.
廻 ävlir-：廻転 ävlir- tägzin- 232 234.
後 kinki 263：最後 qamaγ-ta ang kinki 99.
恒 turγaru 28.
持 tuḍ- 150.
故 üčün 17 18 20 23 25 26 33 34 48 50 56 64 67 72 74 86 99 102 103 112 117 118 134 150 160 161 162 165 167 168 182 193 194 195 198 199 201 203 204 207 209 210 212 214 216 219 221 223 224 227 236 238 239 244 246 251 252 255 264 270： anïn 14 31 42 156 235

258; üčün.....anïn 11 164 174.
是 bu 157; munda 71 185 200; munï 81 184; anï 26 183 265; är- 15 107 110 137 139 144 145 152 160 176 194; 如是 16 53 62 92 132 135 159 268 如をみよ.
昼 kün-ḍüz 125 128.
染 kir 100 kir-lig 73 不染 kir-siz 66 73 染汚 kkir-lig/kir-lig 19 51 53 54 114 121 136 139 140 142 不染汚 kir-siz 89 95.
浄 arïγ 134: 明浄 yruq arïγ bol- 123 129 arïγ yruq bol- 133; 明浄 közün- 126; 不浄 kkir-lig 134.
為 bol- 5 9 10 11 13 15 17 27 31 40 44 48 52 56 57 59 61 62 81 98 164 183 264; qïl- 25 33 39 117.
独 yalnguz 33; säčä 164.
界 uγuš 25 109.
発 tuγ-: 引発 tarḍïlïp tuγ- 148; tur-: 所発 qayu tur- 264.
皆 barča 15 19 31 48 52 94 138 140 142 146 230 250.
相 bir ikinti 47 56 59 171 186 187 269 271; töz 111 114 190; 相違 tägšüt 41 112 qaršï bol- 176; 相応 birlä yaraḍïl- 115 145 147; 堅相 turur bälgü 219; 相続 ulal- 244 248 ula- 252 ulaq 261 202 263.
胝 頗胝迦 215, 頗をみよ.
苾 苾芻 toyïn 80.
草 ot 169.
迦 頗胝迦 215, 頗をみよ.
音 ün: 音声 ün yangqu 228 264.
首 上首 baš bašlaγ 33.
香 yït 231 232.

10画

倶 birlä 141 149 154; birgärü 192 194 196 198 251 253; bir: 倶時 bir öd 212.
修 bïšrunmaq 91 118.
倒 顚倒 120, 顚をみよ.
冥 晦冥 119 122, 晦をみよ.
容 uγur yïq 221 222.
展 展転 öḍlüm öḍlüm 47 255.
差 差別: adïrt öngi 23 228 adïrt 106 132 162 163 219 231 232 265 adïrïl- 165 167 168.
師 baxšï 82 146.
息 amrïl- 246 247 248 260.
時 öd 30 67 74 85 92 98 148 178 192 194 202 212 247 249 250 251 256 260.
根 ärk-lig 71 137 138 154 165 179 185 187 189 193 197 226 229 231 235 266.
殊 adïrtï 12
玆 munta: 由玆 munta uγur-ïn-ta211.
益 asïγ 39; 長益 ükli- ašïl- 154.
眠 随眠品 114 随をみよ.
能 u-.. -γalï/-gäli 24 34 80 100 101 156 158 202 205 209 214

215 231 234 242 243 244 264 266; 能依 tayandačï 7 14 50 55 59 61 156; 功能 18.
翁 苾翁 toyïn 80.
被 täg- 260
記 yrlïγ: 無記 yrlïγ-sïz 55 136 137 138 無記心 yrlïγ-sïz köngül 53 54; yarašï: 無記心 yarašï-sïz köngül 51.
豈 näčük ol 6; näčükin bolγay 231.
起 tur- 94 257 263; turγur- 98; tuγ- 184; tuγur- 154.
除 öngi kiḍär- 122; tarγar- 132.

11画

動 täpinmäk; 行, 傾をみよ.
唯 yintäm 11 99 107 108 145 172 189 213 226; yalnguz 38.
執 tuḍ- 247 249; 我執 män aḍqaγ 15 17 24.
常 uzatï 9 29.
得 bul- 23 32 59 105 167; bol- 57 86 229; pirapdï 85 87 94; 得生 tägmäk tuγmaq 90 96; 眼得永断 köz-üg birḍämläti tarγarγalï umïš 81.
悪 ayïγ 102.
悉 alqu 138 140.
情 köngül 173; 有情 tïnlγ-lar 185.
掩 掩蔽 örḍ- köliḍ- 125.
授 天授 divatad 191.
推 推度 yinčürdäči izdätäči 109.
捨 tiḍ- 48 50 52 55.
教 agam 161.
断 tarγar- 66 68 72 73 74 76 77 79 80 81 84 85 87 91 92 101 103; tarïq- 98 99 104 105 106; tarḍ- 86.
晦 晦冥qarar- 119 122.
望 kör- 49 51 54 55 56 58 60; köni (-sinčä)? 44; 相望 körüš- 47 171.
欲 amranmaq: 欲貪 amranmaq az 80; küsä- 201; uγra- 202.
深 arḍuqraq: 深理趣 arḍuqraq yörüg yol-ï 14.
清 arïγla- 128.
理 yörüg 12 14 26 166 173 213 218 223 270; törü 204 245; yukdï 161 162.
現 yüüz yügärü: 現前 yüüz yügärü qïl- 178 yüüz yügärü bol- 182; yügärü: 現見 yügärü kör- 249 yügärü körül- 253; körül- (現見) 204.
異 öngi 46 49 70 165 259 265; adïrt 219 261; adïrt öngi 133; 異生 pardakčan 65 117.
畢 畢竟 birḍämlig 205.
略 qavïrasïnča 75.
眼 köz 9 71 78 80 81 108 111 113 137 150 153 163 167 172 176 177 178 180 185 193 197 199 200 203 205 209 211 214 221 222 223 224 225 233.
竟 究竟 birḍämlig 67 birdämläti 74; 畢竟 birḍämlig 205.

第 次第 83 100, 次をみよ.
経 sudur 33 77 79.
終 命終 148, 命をみよ.
習 ögräḍin- 131: 修習 bïšrunmaq ögräḍinmäk 118.
脳 煩悩 niz-vanï 67 74 103.
許 tapla- 255 256.
貪 az 18 80 141.
転 ävril- 72 110 244 251 253: 廻転 ävril- tägzin- 232 234; ärü ärü 8 168; tägšil- 167; 展転 öḍlüm öḍlüm 47 255.
都 arïḍï 249.
釈 yör- 1 16 26.
険 険阻 učurum ada 119 122.

12画

勝 yig 36; yig adruq/aṭruq/aduruq 115 150 151 154.
善 ädgü 51 54 115 136 145 147 149.
喩 yöläšürük 206 211.
尋 yoγun saqïnč 21: 尋伺 yoγun inčgä saqïnč 20; 尋究 isdä tübgär- 269.
就 tuḍ- 36 188 190; 成就 tükäl-lig bol- 87 105 177 183.
復 yana 12 43 181 183.
覚 tuyunmaq 134.
斯 bu 223.
智 bilgä 157; bilgä bilig 144.
曾 arïḍï 10 30.
最 qamaγ-ta: 最後 qamaγ-ta ang kinki 99; 最極 qamaγ-ta 129.
焔 yalïn: 燈焔 yula yalïn-ï 253.
然 anḍaγ: anḍaγ oq 37 antaγ/anḍaγ bol- 22 166 不然 anḍaγ ärmäz 1 26 195 223 250 254; inčip 249 266 271.
無 yoq 14 119 134 161 162 176 178 271: yoqadtur- 78: bolma- 42 56 120 221 222 230 240 241; bulduqma- 30 223; -sïz/-siz/-suz/-süz (privative) 51 53 54 55 89 96 99 109 117 130 136 137 138 141 144 171 181 209 239 261 265 269.
猶 anïlayu oq 104 257 263; 猶予 ikirčgülän- 216 217 240; ikirčgülä- 218 238 241.
等 ulatï 43 228: -ta/-tä ulatï 3 9 18 24 71 72 90 94 96 119 122 138 162 163 191 202 208 210 215 230 242 266.
結 qošuγ 85 91 92 94 内眼結 ičtin sïngar-qï köz qošuγ; uγuš: 内眼結 ičtin sïngar-qï köz uγuš 78.
舒 y(ï)rḍïl- 128.
衆 qamaγ: 衆縁 qamaγ basuḍčï-sï 102 衆色 qamaγ öng-lär 155.
証 tanuq 242 213.
越 ärḍ- 210 222.
過 mün qadaγ 223.
道 yol 99 100.
遊 käzä yorï- 119 122 125 128.
量 ülgü 222.
開 別開 angaru adïr- 117.

間 世間 yirtinčü-täki 111 176 184 yirtinčü-lüg 115 124; 相間隔 bir ikinti-kä aṭïrïlïšmaz tïdïlïšmaz 56 59; 無間 oq-suz 209 ooq-suz 269; 無間道 oq-suz yol 99; 中間 ikinti araqï 210; 間隙 ooq yïq.
隨 iyin 99 100 173: 不隨法者 tüšmädäči törü-lüg 65; 隨眠品 anušayakoš 114.
雲 bulït 119 125.
順 iyin 232.

13画
傾 ämid-: 傾動 ämiḍmäk täbinmäk 213.
愛 sävig 185.
意 köngül 33 69 115.
愚 bilig-siz: 愚闇 bilig-siz-lig qarangγu 132.
摂 tuḍul- 116.
損 qurulmaq 260.
極 odγuraq 8; arḍuqraq 199 208 224; 最極 qamaγ-ta 129.
楽 可楽 sävgülük, 268
滅 öč- 250 253 256 263; ärdmäklig: —滅 bir ärdmäklig 3.
照 yaruḍ- 196 202 207 209; yaruq yašuq: 照色 yaruq yašuq öng 112.
煖 išig: 煖性 išig töz-lär-i 170.
煩 煩悩 niz-vanï 67 74 103.
続 相続: ulal- 244 247 248 255, ula- 252, ulaq 259 261 262 263.
義 yörüg 71 75 186 187.
聖 見聖諦 102, 見をみよ.
触 bürüḍüš- 269
逼 sïq-: 隣逼 yaqïn sïq- 207 208 214.
違 相違 41 112 176, 相をみよ.
鈴 qongraγu 247 249; čung qongraγu 246.
隔 相間隔 bir ikinḍi-kä aṭïrïlïšmaz tïdïlïšmaz 56 59.
隙 271, 間をみよ.
頓 käz-tä 246 249.

14画
像 körk 120 123 129.
境 aḍqanγu 25 28 29 30 34 72 76 79 109 133 187 188 189 193 194 198 208 212 213 214 221 222 226 235 243 267.
増 ükli- 126 133.
寧 näčükin 225.
廓 ačïl- 128.
徴 barmγu 271.
徳 大徳求法, 大をみよ.
慢 küvänč 141.
漸 ančan ančan 126 131 133: 漸次 ančan ančan käzig-čä 92 118.
漏 有漏 aqïγ-lïγ 88 89 95 96 115 136 145 17 149.
爾 anḍaγ: anḍaγ är- 27 63 64 150 209 257 261 anḍaγ oq är- 121 124 130 anḍaγ bol- 22

anḍaγ oq bol- 55 anḍaγ oq 197; ol 98.
疑 sizig 141.
維 方維: bulung yïngaq tayaq 227, bulung yïngaq-taqï 228 231 233.
聞 äšid-, äšd- 229 233 237 239 242 244 249 256 264 265 266; äšidil-, äšdil- 248 257.
説 söz-lä- 2 4 17 27 36 37 111 113 146 156 173 176 183 194 195 196 245 268 271; yrlïqa- 33.
竪 turur: 竪相 turur bälgü-si 219.
障 tïdïγ: 垢障 kkir tïdïγ 134; tïdïl-: 所障 tïdïlγuluq 215.
雑 qaḍïlïš- 271.
静 静慮 dyan 178.
頗 頗胝迦 siparïr 215.
鼻 burun 231 266.

15画

審 čïnγar-: 審知 čïnγaru bil- 219.
慧 bilgä bilig 110 115 131 134 138 140 141 143 144 145 147 148 149.
慮 静慮 dyan 178
瞋 övkä 141.
縁 aḍqan- 25 67 72 74 86 103 133 174 175; aḍqaγ 84 87 133 134; tïldaγ 3 27 260 262 264: 因縁 tïldaγ basudtγčï 23 avant tïldaγ 158 159; 衆縁 qamaγ basuḍčï 102.
諸 alqu 32 35 42 43 49 60 67 74 82 90 91 92 94 96 97 99 100 102 103 122 133 138 163 171 179 184 209 240 241 271; kim 158.
誰 kim 157.
調 調伏: turuldur-yavaldur- 35 turul- yaval- 36.
論 論師 šastïrakarï 82.
質 töz körk 248 255 256 264.
趣 yol: 理趣 yorüg yol-ï 14 意趣 abïpïrayï yol-ï 268 270; ažun: 悪趣 ayïγ ažun 102.
輪 tilgän: 日輪 kün tngri tilgän 125, 月輪 ay tängri tilgän 222.
遮 taḍ- 24.

16画

壊 arḍat- 64.
樹 sögüḍ: 樹林 sögüḍ arïγ 210.
燈 yula 196 198 202 206 208 211 250 253 258 259; yruq 194 209.
縛 baγ 76 77.
蔽 kölid-: 掩蔽 örd- kölid- 125.
薪 oḍung 151.
親 親近 yaqïn yaγuq 8.
謂 qaltï 29 69 115 134 141 148 177 203 228 253; 謂若 qaltï birök 51 qaltï kim-lär 196; 若謂 söz-läsär 203 250.
諦 見聖諦 102, 見をみよ.
踰 踰繕那 yočan 222.
闘 ägsük 102 179.

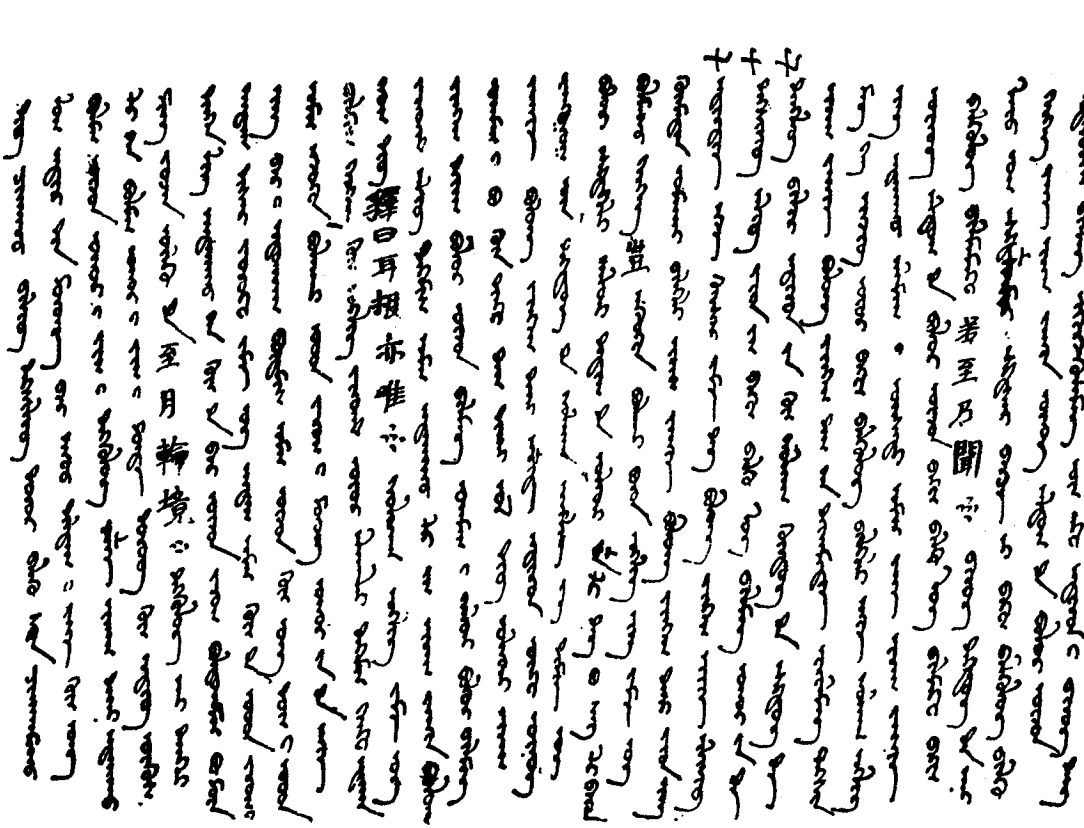
隣 yaqïn: 隣逼 yaqïn sïq-a 207 208 214; yaqïn bol- 266.

17画
糠 qïγ 169.
糞 mayaq 169.
總 yomdar- 135.
謝 謝滅 öč- 256.
闇 qarangγu 112 132 201.
雖 näčä.. -sar/-sär ymä 43 169 179 183 232 267; näčä.. -sar ymä ök 35.

18画
繕 踰繕那 yočan 222.
覆 örḍüg 138.
観 körmäk 112 121 124 127 130.
顕 uqïḍγal- 117 118.
類 uγuš 46 49 64 135 136 137 139 143 144 145 149 171; 同類 oxšaḍï 60; 非類 oxšaḍï ärmäz 235.

19画
礙 拘礙 185 186, 拘をみよ.
繋 baγ 86 94; qošul-: 所繋 qošulγuluq 91.
識 bilig 9 72 115 147 148 149 150 152 154 156 160 162 163 164 167 171 172 175 176 178 180 182 184 262 264.
離 öngi üdrül- 50 52 76 79 86 94 97 100; öngi 153; adïrïl- 248 255.
顛 顛倒 täḍrü är- 120.

20画
蘊 yükmäk 25.
譬 譬如: inčä qaltï... -ta/-tä (locative) 119 122 125 128; inčä qaltï...täg 196.



大英図書館所蔵 Or. 8212-75B　頁76B-77A（本文テクスト219—239）